



令和5年度  
「彦根市地域学校協働活動推進事業」  
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業  
地域家庭教育支援事業

## 実践事例集

発行 令和6年(2024年)3月  
彦根市教育委員会事務局生涯学習課  
TEL0749-24-7974 FAX0749-23-9190  
E-mail syogai@mx.hikone.ed.jp

# 目 次

1	彦根市の事業概要と経緯・取組について	1	
2	各校の地域学校協働本部事業の取組		
	東中学校	子どもたち、ボランティアをお客さんにならない活動を	9
	城東小学校	「城東ちょことボランティア」さんとともに創る城東っ子の主体的な学び	10
	佐和山小学校	学校と佐和山応援隊の双方向連携で、佐和山っ子の確かな育ちを	11
	旭森小学校	地域と学校のつながりを生かし、学びの活性化を図る	12
	西中学校	地域とともに子どもを「たがやす きたえる つなぐ」	13
	城西小学校	児童の豊かな学びを地域とともに創造する	14
	城北小学校	地域に学び、人、もの、自然への愛着心を育てる『城北たんけん～このまち大好き～』	15
	中央中学校	地域・公民館とともにある学校 SCHOOL SUPPORT	16
	平田小学校	豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり	17
	金城小学校	地域のでつくる子ども達の豊かな学習活動	18
	南中学校	彦根南サポートオフィス12年目の取組 ～継続は力～	19
	城南小学校	つながりが生み出す豊かな学び	20
	城陽小学校	つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～	21
	亀山小学校	ふるさとを愛しふるさとに学ぶ「We Love かめやま」	22
	彦根中学校	未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動	23
	河瀬小学校	見る、聞く、体験する、地域に支えられて育つ「河瀬っ子」	24
	高宮小学校	地域力を学校に、学校力を地域力に	25
	鳥居本中学校	地域と学校を結び鳥居本学園の協働活動	26
	鳥居本小学校	「ふるさとと共に生きる喜びを」 地域とつながる活動の支援	27
	稲枝中学校	地域の未来につなぐ学校支援	28
	稲枝東小学校	子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動	29
	稲枝西小学校	「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして	30
	稲枝北小学校	ふるさとに誇りをもち、未来にたくましく生きる子どもの育成	31
	若葉小学校	「子どもたちの笑顔のために」 チームわかバンク8年目の取組	32
3	各校の地域未来塾事業の取組		
	東中学校	あたたかい人間関係の中で、自分らしさを発揮して学習に取り組める場を	33
	城東小学校	それぞれの「〇〇したい！」にあった支援で、学力アップ！	33
	佐和山小学校	個に応じた学習支援～「わからない」を大切に明日の授業に自信と楽しみを～	34
	西中学校	「あなたの未来のために学力向上をめざしませんか？」来たれ！未来塾	34
	城西小学校	基礎・基本の定着をねらいとした学習支援	35

城北小学校	夏休みきらり学習教室 ～個別指導による学力補充学習～	35
中央中学校	来てみる・やってみる 「土曜教室・てみる」	36
	子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり	36
南中学校	放課後学習「水曜ゼミ」	37
亀山小学校	夏休み前補充学習教室	37
彦根中学校	学びを育む学習会	38
河瀬小学校	算数科学習支援教室	38
高宮小学校	地域と共に育てる子どもの学ぶ力	39
鳥居本中学校	地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾	39
鳥居本小学校	輝く笑顔 一人ひとりの「わかった！」をめざして	40
稲枝中学校	生徒と指導者、生徒同士で教えあい、学びあう態度を培う学習塾	40
稲枝東小学校	子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」	41
稲枝西小学校	わくわく はえみ学習	42
稲枝北小学校	「できる・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学習欲を高める	42

#### 4 地域家庭教育支援事業の取組

佐和山小学校	保護者に「子育ての悩みを話せる人がいる」という安らぎを	43
旭森小学校	家庭を支え、学校とつなぐアウトリーチ型家庭教育支援事業	44
金城小学校	家庭と学校をつなぐ ～すべては子どもの笑顔のために～	45
平田小学校	家庭と学校をつなぐ ～すべては子どもの笑顔のために～	46
城南小学校	保護者に寄り添う家庭教育推進を目指して	47

#### 5 資料

コミュニティ・スクール広報チラシ	48
彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱	49
令和5年度彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員名簿	51
令和5年度彦根市地域学校協働活動推進員名簿	52

## 彦根市の事業概要と経緯・取組について (地域学校協働本部事業・地域未来塾事業・地域家庭教育支援事業)

彦根市教育委員会事務局生涯学習課

### □事業の概要

- ・幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（地域学校協働活動）を推進し、学校と地域との連携体制の構築を図る。
- ・地域住民が自らの経験や知識を活かす場として、自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化など、地域づくりにつなぐ。
- ・地域未来塾では、小学生・中学生を対象に放課後や土曜日等に教員OBや大学生など地域住民の協力による学習支援を実施する。この取組で学力向上を図るとともに、さまざまな要因により、学習習慣が身につけていない小・中学生への支援にもつなげる。
- ・7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校支援地域協議会に委託して実施する。
- ・子育てに困り感や課題がある小学校児童の家庭の保護者を対象に、訪問型の家庭教育支援を行い、見守りや相談活動を通して、保護者の悩みや不安を軽減するとともに、地域におけるつながりを作る支援、家庭教育や子育てについての助言や情報提供を行い、親子に関する問題の解決を目指す。  
(令和2年度から事業開始)

### □取組の経緯・取組

- ① 平成20年度～平成22年度 3年間の文部科学省委託事業  
平成20年度 東、稲枝 市内2中学校区で事業が始まる。  
平成21年度 東、西、鳥居本、稲枝 市内4中学校区に拡大実施  

- ② 平成23年度から 市の事業（国・県・市 1/3 ずつ負担） 市内全7中学校区で実施  

- ③ 平成24年度
  - ・市内7中学校区支援地域協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）
  - ・予算 4,734,000円（補助金3,156,000円）
  - ・実行委員会の開催（年3回）
    - 7月31日(火) 10:00～11:30 事業説明・実践交流
    - 11月29日(木) 14:00～16:00 研修会・実践交流
    - 3月1日(金) 14:30～16:30 実践のまとめ・振り返り
  - ・H24年度の取組重点  
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
  - ・学校訪問11月 7中学校区訪問  

- ④ 平成25年度
  - ・市内7中学校区支援地域協議会  
(従来型／東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型／中央・稲枝)
  - ・予算 4,583,000円（補助金3,055,000円）
  - ・実行委員会の開催（年3回）
    - 構成委員：15名+事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）
    - 8月2日(金) 14:00～15:30 事業説明・実践交流
    - 11月28日(木) 9:30～11:30 研修会・実践交流

- 3月4日(火) 9:30~11:30 実践報告・振り返り
- ・H25年度の取組重点(継続)  
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
  - ・学校訪問 11月7日 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



- ⑤ 平成26年度
- ・市内7中学校区支援地域協議会  
(従来型/東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型/中央・稲枝)
  - ・予算 4,613,000円(補助金 3,075,000円)
  - ・実行委員会の開催(年3回)  
構成委員:15名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)  
8月4日(月) 14:00~15:50 事業説明・実践交流  
11月26日(水) 9:30~11:40 研修会・実践交流  
3月2日(月) 9:30~11:30 実践報告・振り返り
  - ・H26年度の取組重点(継続)  
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
  - ・学校訪問  
11月7日 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
  - ・平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰  
被表彰団体:彦根市学校支援地域本部  
12月8日(月) 文部科学省東館3階講堂(東京都千代田区霞が関3-2-2)



- ⑥ 平成27年度
- ・市内7中学校区支援地域協議会  
(従来型/東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型/中央・稲枝)
  - ・予算 4,633,000円(補助金 3,075,000円→2,226,000円)
  - ・実行委員会の開催(年3回)  
構成委員:15名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)  
8月4日(火) 9:30~11:30 事業説明・実践交流  
11月30日(月) 9:30~11:30 研修会(TKJ演習)・実践交流  
2月25日(木) 14:00~16:00 実践報告・振り返り
  - ・H27年度の取組重点(継続)  
地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施
  - ・学校訪問  
11月7日 中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



- ⑦ 平成28年度
- ・市内7中学校区支援地域協議会(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)
  - ・学校支援地域本部事業予算 4,632,000円(補助金 3,088,000円)
  - ・土曜学習支援事業予算 450,000円(補助金 300,000円)
  - ・実行委員会の開催(年2回)  
構成委員:15名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)  
7月12日(火) 9:30~11:30 事業説明・実践交流  
2月9日(木) 9:30~11:30 今年度の実践報告 次年度に向けて
  - ・コーディネーター連絡会の開催 12月22日(木) 14:00~16:00
  - ・H28年度の取組重点(継続)

地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施  
学校支援に学校と地域の連携・協働活動を加える。

・学校訪問

10月～11月 7中学校訪問

学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認



⑧ 平成29年度

・市内7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)と若葉小学校の支援地域協議会

・地域学校協働本部事業予算 4,410,000円(補助金2,895,000円)

・地域未来塾事業予算 2,295,000円(補助金1,530,000円)

・実行委員会の開催(年2回)

構成委員:18名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査)

7月14日(金) 9:30～11:30 事業説明・実践交流

1月29日(月) 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

・H29年度の取組重点

学校と地域の連携・協働活動の推進

(学校と地域の連携強化 地域のネットワークの拡充)

・学校訪問

10月～11月 7中学校と若葉小学校訪問

地域学校協働本部事業と地域未来塾事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

・コーディネーター研修会および連絡会の開催

12月22日(金) 14:00～16:00

講師 湖南省立菩提寺小学校地域コーディネーター兼学校運営協議会理事

安部 正毅 氏 「地域コーディネーターに必要なこと」



⑨ 平成30年度

・市内7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)と若葉小学校の支援地域協議会

・地域学校協働本部事業予算 4,464,000円(補助金2,976,000円)

・地域未来塾事業予算 2,351,000円(補助金1,567,000円)

・実行委員会の開催(年2回)

構成委員:18名+事務局(生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹)

7月13日(金) 14:30～16:30 事業説明・実践交流

1月28日(月) 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて

・H30年度の取組重点

地域学校協働活動と地域未来塾の推進

コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校の連携強化とネットワークの拡充

・教頭研修会

7月9日(月)10:30～11:30 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動に係る研修

・学校訪問

10月～11月 7中学校と若葉小学校、稲枝西小学校を訪問

地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の

把握、今後の取組の確認

・コーディネーター連絡会の開催

12月21日(金)14:00～16:00 コミュニティ・スクールの実践報告と情報交流



⑩ 令和元年度

- ・市内7中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 3,336,000円（補助金2,224,000円）
- ・地域未来塾事業予算 2,211,000円（補助金1,474,000円）
- ・実行委員会の開催（年2回）
  - 構成委員：19名＋事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、主査）
  - 7月4日(木) 14:30～16:30 事業説明・実践交流
  - 1月27日(月) 14:00～16:00 今年度の実践報告 次年度に向けて
- ・令和元年度の取組重点 地域学校協働活動のさらなる充実
  - 「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
  - コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
- ・学校訪問
  - 10月～12月 7中学校と若葉小学校、稲枝西小学校を訪問
  - 地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・コーディネーター研修会の開催
  - 12月19日(木)14:00～16:00
  - 滋賀県コミュニティ・スクールアドバイザー北辺禎雄氏
  - 「コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校の連携・協働活動について」



#### ⑪ 令和2年度

- ・市内7中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 2,645,000円（補助金1,763,000円）
- ・地域未来塾事業予算 1,956,000円（補助金1,304,000円）
- ・実行委員会の開催（年2回）
  - 構成委員：19名＋事務局（学校教育課長、副主幹、生涯学習課長、主幹）
  - 6月18日(木) 書面会議（事業説明資料を送付） 7月2日(木)まとめを送付
  - 1月26日(火) 14:00～16:00 WEB会議 今年度の実践報告・次年度に向けて
- ・令和2年度の取組重点 地域学校協働活動のさらなる充実
  - 「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
  - コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
- ・学校訪問
  - 10月～11月 7中学校と若葉小学校、城北小学校、稲枝西小学校を訪問
  - 地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・県のモデル事業として「家庭教育支援事業」がスタート 湖南市と彦根市 佐和山小・旭森小学校の家庭教育支援地域協議会に委託
  - 家庭教育支援事業予算 518,000円（補助金 345,000円）
  - 第1回 家庭教育支援事業運営委員会 8月5日（水） 14：00～15：45
  - 第2回 家庭教育支援事業運営委員会 2月10日（水） 14：00～15：45



#### ⑫ 令和3年度

- ・市内7中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 2,456,000円（補助金1,637,000円）
- ・地域未来塾事業予算 2,482,000円（補助金1,655,000円）
- ・実行委員会の開催（年2回）
  - 構成委員：19名＋事務局（学校教育課長、副主幹、生涯学習課長、主幹）

- 6月11日(木) 書面会議(事業説明資料を送付) 6月22日(木)まとめを送付
- 2月上旬 書面会議 今年度の実践報告・次年度に向けて
- ・令和3年度の取組重点 地域学校協働活動のさらなる充実
  - 「支援」から「連携・協働」へ、「個別の取組」から「総合化・ネットワーク化」へ
  - コミュニティ・スクールを視野に入れた地域と学校との連携
- ・学校訪問
  - 10月～11月 7中学校と若葉小学校、城北小学校、稲枝西小学校を訪問
  - 地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認
- ・家庭教育支援事業 旭森小・佐和山小に加え城東小学校にも拡充
  - 家庭教育支援事業予算 673,000円(補助金424,000円)
  - 第1回 家庭教育支援事業運営委員会 7月12日(月) 10:30～12:00
  - 第2回 家庭教育支援事業運営委員会 2月21日(月) 10:00～11:45



- ⑬ 令和4年度
- ・市内7中学校区(東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝)と若葉小学校の支援地域協議会
  - ・地域学校協働本部事業予算 2,354,000円(補助金1,569,000円)
  - ・地域未来塾事業予算 2,390,000円(補助金1,593,000円)
  - ・実行委員会の開催(年2回)
    - 構成委員:19名+事務局(学校教育課長、副主幹、生涯学習課長、主幹)
    - 5月20日(金) 書面会議(事業説明資料を送付) 6月21日(火)会議のまとめを送付
    - 1月27日(金) 「Teams」によるWEB会議 14:00～15:45
    - 研修動画の視聴 本年度の取組の交流
    - ブレイクアウトルームを活用したグループ交流と全体共有
  - ・令和4年度の取組重点
    - 地域学校協働活動のさらなる充実
    - 「支援」から「連携・協働」へ、
    - ～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を目指して～
  - ・教頭会研修会 6月27日(月) 10:30～11:30
    - 「地域とともにある学校づくり ～ミライを見据え、今からできること」松田 幸夫氏
  - ・学校訪問
    - 10月～11月 7中学校と若葉小学校に加え、
    - 学校運営協議会設置校・令和5年度「学校運営協議会」導入予定校
    - (城南小学校、稲枝東小学校、稲枝北小学校、亀山小学校、城西小学校、城北小学校)
    - 計14校の訪問
    - 地域学校協働本部事業・地域未来塾事業とコミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握、「学校運営協議会」設置に向けた課題の共有
  - ・コミュニティ・スクールの充実・促進を図るための研修会 2月22日(水)城西小学校
  - ・家庭教育支援事業 旭森小・佐和山小に加え、金城小・平田小学校にも拡充
    - 家庭教育支援事業予算 486,000円(補助金324,000円)
    - 第1回 家庭教育支援事業運営委員会 7月19日(火) 10:30～12:00
    - 第2回 家庭教育支援事業運営委員会 2月21日(火) 10:00～11:45



⑭ 令和5年度

- ・市内7中学校区（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）と若葉小学校の支援地域協議会
- ・地域学校協働本部事業予算 2,057,000円（補助金1,371,000円）
- ・地域未来塾事業予算 1,607,000円（補助金1,071,000円）
- ・実行委員会の開催（年2回）
  - 構成委員：19名＋事務局（学校教育課長、生涯学習課長、主幹、主査）
  - 第1回 6月23日（金） 14:00～14:45  
各校の特徴的な取組の交流
  - 第2回 1月29日（月） 13:45～15:30  
各校の実践に学ぶ 取組交流と次年度に向けた意見交流
- 「Teams」によるWEB会議 ブレイクアウトルームを活用したグループ交流と全体共有
- ・第1回 彦根市学校運営協議会研修 7月14日（金）～ オンデマンド型の動画配信研修  
「コミュニティ・スクールの基礎・基本」
- ・広報ひこね10月号 「コミュニティ・スクール」の特集記事の掲載
- ・市教委担当による学校訪問 10月～11月（計13校）  
地域学校協働活動の推進状況の把握  
学校運営協議会導入に向けた指導助言
- ・彦根市地域学校協働活動推進員研修会 11月2日（木） 15:30～16:45  
「地域学校協働活動推進員の果たす役割」  
県教育委員会 CSアドバイザー 伊藤 照男氏
- ・第2回彦根市学校運営協議会研修 11月28日（火） 15:30～16:30  
「対話のある学校 地域協働で大切な視点（熟議）」  
県教育委員会 CSアドバイザー 松田 幸夫氏
- ・第3回 彦根市学校運営協議会研修 2月22日（木） 15:50～16:50  
「コミュニティ・スクールを導入・充実させていくために」  
県教育委員会 CSアドバイザー 伊藤 照男氏
- ・家庭教育支援事業 旭森小・佐和山小・金城小・平田小学校に加え、城南小学校にも拡充  
家庭教育支援事業予算 798,000円（補助金532,000円）
  - 第1回 家庭教育支援事業運営委員会 7月13日（木） 10:00～11:45
  - 第2回 家庭教育支援事業運営委員会 2月26日（月） 10:00～11:45  
取組状況の交流、本事業の推進方策の検討や家庭教育支援についての情報交換
- ・家庭教育支援員連絡協議会の開催 11月17日（金） 9:30～11:45  
各校の実践と取組の交流  
グループワーク「つながりにくい家庭に対する支援について」  
講師：滋賀県 SSW SV（スクールソーシャルワーク スーパーバイザー）上村 文子 氏

## 彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

### ■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

### ■本年度の具体的活動

- ・地域学校協働活動推進事業実行委員会の開催（年2回）
  - 第1回 6月23日（金） 各校の特徴的な取組の交流
  - 第2回 1月29日（月） 各校の実践に学ぶ 取組交流と次年度に向けた意見交流
- ・第1回 彦根市学校運営協議会研修 7月14日（金）～ オンデマンド型の動画配信研修  
「コミュニティ・スクールの基礎・基本」
- ・広報ひこね10月号 「コミュニティ・スクール」の特集記事の掲載
- ・市教委担当による学校訪問 10月～11月  
地域学校協働活動の推進状況の把握  
学校運営協議会導入に向けた指導助言
- ・彦根市地域学校協働活動推進員研修会 11月2日（木）  
「地域学校協働活動推進員の果たす役割」
- ・第2回 彦根市学校運営協議会研修 11月28日（火）  
「対話のある学校 地域協働で大切な視点（熟議）」
- ・第3回 彦根市学校運営協議会研修 2月22日（木）  
「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の充実に向けて」



【研修会 模擬「熟議」の様子】

### ■本年度の成果

地域学校協働活動の中身が充実してきた。学校への支援活動から協働する活動への深まりが見られた。

学校運営協議会と地域学校協働活動との「つながり」を意識し、一体的な推進への理解が深まった。学校運営協議会導入に向けた機運が高まった。

### ■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、新たな支援のネットワーク化を図り、人材を安定的に確保していくことが重要である。

地域学校協働活動推進員の役割の共通理解と資質の向上。

### ■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

市内全ての小中学校において、1～2名の地域学校協働活動推進員を配置し、教育委員会が委嘱した。本年度は、34名の地域学校協働活動推進員を委嘱した。

### ■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

次年度（令和6年度）、市内の全ての小・中学校（24校）において学校運営協議会が導入される予定である。公立の幼稚園については、学校と協働・支援する組織はあるものの、学校運営協議会を立ち上げるとことまではいたっていない。

## 彦根市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

核家族化、共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変わりつつあり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加など、家庭教育を行う上での困難な現状がある。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭など、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念され、地域全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子どもに困り感や課題（遅刻、行き渋り、不登校傾向、情緒不安定等）がある小学校児童の家庭で、悩みや不安を抱えたまま自ら相談できない保護者や地域で孤立しやすい家庭の保護者を対象に、訪問型の家庭教育支援を行い、見守りや相談活動を通じて保護者の悩みや不安等のストレスを軽減するとともに、地域におけるつながりをつくる支援、家庭教育や子育てについての助言、子どもへの学習機会の提供等を行うことで、親子に関する問題の解決を目指す。

### ■本年度の活動

- (1) 家庭教育支援チーム会議の開催（各小学校での開催）  
当該校の管理職、関係教員、SSW、家庭教育支援員、市事業担当者
- (2) 家庭教育支援事業運営委員会の開催（年2回）  
市教育委員会事務局、子育て支援部局、福祉部局、実践校、県SSW・SVによる運営委員会の開催
- (3) 家庭教育支援員による訪問型支援の実施  
実践校の家庭教育支援地域協議会に家庭教育支援員を配置し、訪問型の家庭教育支援を実施するとともに、新規中学校区内の1小学校にも事業を拡充。
- (4) 家庭教育支援員連絡協議会の開催  
各校の家庭教育支援の取組の状況を交流するとともに、つながりが難しい家庭に対して、県のSSW・SVから、助言をもらい家庭教育支援員のスキルアップにつなげた。



【 連絡協議会での学び 】

### ■訪問型家庭教育支援の実践内容

市内5小学校において、それぞれ家庭教育支援チームを組織するとともに、各小学校において訪問型による家庭教育支援を実施した。

### ■本年度の成果

家庭教育支援員が、保護者の子育てを労い、悩みを聞くなどの関係性を築く中で、子ども理解が進み、親子関係が改善し不登校傾向が緩和した事例や、登校を渋っている児童の家庭に対して、家庭教育支援員が訪問することで一緒に登校できるようになった事例等があり成果を上げている。

### ■今後の課題

行政主導ではなく、地域が主体性を発揮した中で、地域学校協働活動一つとして、地域の中で、家庭教育支援活動が位置づいていくこと。また、家庭教育支援員を安定的に確保できる仕組みづくりが必要である。

報告書記入者（生涯学習課 担当）

## 子どもたち・ボランティアがお客さんにならない活動を

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	東学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：50人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他 [ ボランティア等研修 ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ① 図書室の開館支援・・・図書委員会とボランティアが協働して開館
- ② 1年生フィールドワーク（郷土学習）・・・受け入れと安全見守り
- ③ 特別支援学級の野外活動支援・・・活動場所（彦根プレーパーク）の提供と活動（火起こし、焼き芋、自然体験）支援
- ④ 工藤勇一先生の講演録画を見る会（佐和山小学校2回、地域4回・東中学校4回）ほか

### ■ 実施に当たっての工夫

これまで、さまざまな学校支援をおこなってきたが、ボランティアが支援に入ると、先生たちは助かって、子どもが、時には先生までもが受け身になってしまうことがあり、中学校を支援することの難しさを感じてきた。そこで、①では、地域協働活動推進員が委員会に出席して、生徒に直接支援が必要かどうかを問うたり、委員長・副委員長には毎月ボランティアの当番表を渡したりするなどし、ボランティア間では、グループLINEを使って情報共有を行った。②③では、協働活動推進員が先生方の会議に出る等、打ち合わせを丁寧におこなった。④では、「当事者意識を育てる」という工藤勇一（横浜創英中学高校校長）の講演録画を観る会を数多く設定し、ボランティアや保護者、先生方に、子どもへの声のかけ方、関わり方を共に考えていける機会をつくるようにした。



【 昼休みの図書室開館支援の様子 】

### ■ 事業の成果

- ① ほぼ毎日昼休みに図書室を開館でき、多くの生徒が利用することができた。図書委員の自覚が促された。
- ②③ 地域協働活動推進員に活動の全体が見えるようになり、適切な支援ができるようになった。
- ④ 「子どもたちに当事者意識を育てる」という目的を意識することで、大人の子どもの声のかけ方、関わり方が少しずつ変わってきた。録画を観る会に参加した人が新たにボランティアに加わるなど、ネットワークが広がった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

①は委員会が前期後期制で、担当教員・図書委員が年度途中で変わるため、1年を通した見通しが立ちにくく、コミュニケーションもとりにくい。どの活動においても、同じ活動の支援が毎年続くと、支援があつて当たり前のようになりがちだが、ノウハウを積み上げながらも、前年の活動にとらわれず、新たに始めるつもりで取り組められると良いと思う。彦根市では、次年度から全小中学校をコミュニティ・スクールにする方向で進んでいる。重要なのは、学校と地域が何を目標にして協働するかであるため、話し合いとともに④のような共通した視点を育む研修の場をつくっていかなければならないと思っている。



【 彦根プレーパークでの野外活動の様子 】

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

特になし

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

- 校長 教頭 地域連携担当教職員  
その他（担任・学年主任・担当教員（部活動・委員会・日本語指導）・読書支援員）

報告書記入者（ 協働活動推進員 ）



## 学校と佐和山応援隊の双方向連携で、佐和山っ子の確かな育ちを

<b>彦根市</b>	<b>活動名：東中学校区地域学校協働本部</b>	<b>佐和山小学校</b> 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） ボランティア登録数：56人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 ■その他 [ 長期休業前の印刷物の作成 ]		

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

4月、本年度も地域学校協働活動推進員の発信により、支援内容に応じた『佐和山応援隊』を募集していただいた。保護者・地域の方56名の登録で、本年度の地域学校協働本部事業がスタートした。支援事業の内容で、学校担当者と地域コーディネーターでの連絡・学年主任と地域学校協働活動推進員の連絡の区別をし、フリー部が学校内外の連携を支えるシステムを作った。また、佐和山応援隊に意見や感想を求める双方向の連携関係を大切にしていくことも確認した。このことで、連絡の迅速化や地域学校協働活動推進員の支援の効率化を目指した。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

5年生の家庭科学習“ミシンでソーイング”では、「子供たち一人一人が自分の力でミシンの上糸・下糸の準備ができるようにする」というねらいを説明し、ミシンの上糸・下糸の学習に佐和山応援隊を依頼した。教師一人の斉授業だけでは、技能の定着に時間を要する学習である。このことで手厚いみとりができ、ほとんどの子供が一人で上糸・下糸の準備ができるようになった。また、教師と佐和山応援隊が双方向の意見交換を大切にすることで、補充を要する子供の情報もいただき、ねらい通り「子供一人一人が自分の力で上糸・下糸の準備ができるようになった。このことでどの子も次時の学習へスムーズに進めた。

学習のねらいを明確にしたことで、佐和山応援隊の方にも教師と同様の願いをもっていただき、同じ方向を向いた支援をいただくことができた。双方向の関係を大切にすることで、子供たちの学習・活動中の情報を教えていただくことができ、子供たちの学習をより高めることができた。



【5年生家庭科学習  
“ミシン糸の準備”の学習支援】

■ 実施に当たっての工夫

本年度は、5月から「新型コロナウイルスによる感染症」にかかわる諸事が大きく変化した。しかしながらコロナ禍やインフルエンザ感染等、楽観できない状況でもあった。学校で、感染症対策等の計画を立てて用具の事前消毒を心掛けた。また、学習のねらいを明確にすると共に子供たちの様子や動きをわかりやすくまとめ、事前打ち合わせで学校と佐和山応援隊とが共通理解をした。また佐和山応援隊からも支援をスムーズにするための提案や要望もいただいた。こういった双方向の連携を大切にすることを原則とした。また、事後のお礼のメッセージも行うように共通理解している。

■ 事業の成果

事前打ち合わせを丁寧にすることで、学習のねらいや危険箇所・子供への対応の仕方等が佐和山応援隊の方に理解していただき、ねらいの到達が効果的であった。また、双方向の連携関係を大切にすることやお礼のメッセージ等は、佐和山応援隊の方の活動意欲の向上と学校経営の円滑化を促した。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

支援をしていただくにあたり、細かく配置や役柄を決めてしまったため、急な欠席等に対応しにくいことがあった。学校が頼りすぎてしまったことが大きな要因と考えられるが、余裕をもった計画で臨むことの大切さを改めて感じた。

また、現在は、「支援」という形で活動していただいているのが大半である。今後は、人材バンクのようなカテゴリーも作り、子供たちの指導にも参画していただくことを視野に入れたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

□校長 □教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他（教務、学年主任）

報告書記入者（地域連携担当教員）

## 地域と学校のつながりを生かし、学びの活性化を図る

彦根市	活動名：東中学校地域学校協働本部	旭森小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務1人） ボランティア登録数：64人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○学校図書ボランティア「すまいる」の活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」の愛称で活動をしていただいている。今年度も、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、クラス単位での読み聞かせを定期的に行った。子どもたちは、生で伝わる読み聞かせのよさを身をもって感じるようになった。学校図書館の本の整理にもご協力いただき、読書活動の充実の大きな支えとなっていただいている。

#### ○子どもたちの心の活性化を図るゲストティーチャーの招聘

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、従来から行ってきた形態に戻し、多くの学年でゲストティーチャーを招いた教育活動に取り組んできている。1年生の「昔の遊び体験」、2年生の「モビリティマネジメント出前授業」、3年生の「地域の歴史探訪」、4年生の「福祉学習」、5年生の「トヨタ出前授業」等を行った。どの学習活動においても、子どもたちは本物を目の当たりにすることにより心の活性化を図り、深まりのある学習を行うことができた。今年度は地域の歴史研究サークルさんが作成された「歴史まち歩きマップ」を寄付いただくなど、昨年度以上につながりを強くもてたことが大きい。地域の歴史を学ぶ上で頼もしい存在として、今後も学習支援をお願いしたい。



【3年生 地域の歴史学習の様子】

#### ○「旭森ボランティア」の活動

今年度も、保護者対象に学校での子どもたちの安全管理と教育活動を支えるため、

①徒競走大会 ②水泳授業の監視・消毒 ③マーチング指導 ④5・6年生の家庭科・裁縫学習 ⑤3年生の地域学習 ⑥音楽集会 ⑦6年生のゲストティーチャー（職業体験談） ⑧就学時健康診断（案内） についてのボランティアの募集を行った。11名の登録があり、すべての項目でお越しいただくことはなかったが、さまざまな教育活動を支えていただいた。

### ■ 実施に当たっての工夫

#### ○事前の打合せの充実

ゲストティーチャーに講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。地域学校協働活動推進員の方が事前に学習カリキュラムを想定して今年度の担当教員に助言をしたり、関係機関に対して手紙や電話連絡をしたりしていただくことで連携がよりスムーズに図れたことが大きな成果と感じている。

#### ○保護者の授業・行事への分散参観と学校ホームページによる積極的な情報発信

保護者にとって、落ち着いた環境での授業や行事の参観を実現するために、地域や学年ごとに割り振った参観を昨年度に引き続き行った。新型コロナウイルスの5類への移行により、各ご家庭からの参観人数の制限は行わなかったこともあり、保護者の理解を得ながら、できる限りの教育活動の公開を行ってきた。日々の教育活動について学校ホームページを通じ、「写真」と「概略の紹介文」の掲載を行い、日々の学校生活について保護者や地域の方が進んで閲覧する機会をもていただけよう、定期的な更新を心掛けた。また、校務支援システム「tetoru」を活用し、学年通信等の積極的な発信に取り組んできた。登録している保護者一人ひとりに多くのアクセスがあり、一定の情報公開を行えている評価も得ている。今後も定期的な発信を行っていきたい。

### ■ 事業の成果

○学級単位の交流や分散参観の実施など、よりよい形態での協働の在り方について実践を積むことができた。

○多忙な中、保護者の温かな支援のありがたさをより強く感じる。「旭森ボランティア」の輪を今後も是非広げていきたい。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校運営協議会を通じて、地域に広く呼びかけ、「旭森ボランティア」の輪を広げ、多様な教育活動の支援の輪を広げていく。

○Teamsなどの活用でリモートを用いてゲストティーチャーや地域の方との連携の場を積極的に探っていく。

○小さな集団での協働や関わりの在り方のよさを今後も探り、活用していく。

#### ■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（主幹教諭）

## 地域とともに子どもを「たがやす きたえる つなぐ」

<b>彦根市</b>	活動名： <b>西中学校区地域学校協働本部</b>	<b>西中学校</b>	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域と学校（子どもたち）とがつながる活動とその運営について
- ・中学生の地域での貢献活動について
- ・地域住民への周知について



【ラジオ体操の会】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・学校のグラウンドの花壇の整備を、特別支援学級の生徒と協働して行った。
  - ・学校が主体となって地域の諸団体の方と生徒代表による「中学生と小学生の地域貢献」に向けての意見交換会を実施した。
- ・地域と子どもたちがつながる新しい活動として、夏休みに「ラジオ体操の会」を開催した。またその日に、ウクライナ支援の資源回収を行った。
- ・地域の一人暮らしの高齢者のお宅へ訪問し、全校生徒制作の「クリスマスカード・ニューイヤーカード&ポスター」を生徒と民生委員児童委員が協力して届ける取組を生徒会が主体となって行った。また「あさがお」の種を添えて、平和への思いを込めて届けた。
- ・地域の方を講師として招き、受験を前にした子どもたちにギター教室を開催した。
- ・子どもたちが使うグラウンド周辺の環境整備活動を行った。
- ・スポーツ振興会、青少年育成協議会と連携し、イベントの役員やボランティアに中学生が参加し活躍できた。



【ギター教室】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域学校協働活動推進員と管理職や地域連携担当教員との綿密な打ち合わせを行った。
- ・それぞれの活動の意味を明確にし、子どもたちに活動の意義を伝えた。

■ 事業の成果

- ・地域の方とのふれあいを通して、地域への愛着や地域を誇りに思う気持ちを育むことができ、地域貢献活動への意欲に繋がった。
- ・ラジオ体操の会の取組では、早朝から多くの方々が来られ、西中学校区の明るい未来を感じさせる気持ちの良い時間となった。
- ・クリスマスカードの取組が、地域の方に受け入れられ、楽しみにされている高齢者の方も多く、中学生が地域で活動する取り組みとして根付いている。活動後、地域の方から多くのお礼の手紙等をいただき、生徒も温かい気持ちになった。
- ・ギター教室では、受験を前にしてストレスを感じていた生徒へ、心が安らぐ時間となった。
- ・社会福祉協議会をはじめ、地域の諸団体と連携協働をすることにより、生徒の学習を深めることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域の諸団体の役員の方々が変わられていることも多く、地域の方への丁寧な説明を行い、つながりを深めていきたい。また、地域の人材のさらなる発掘や活動内容の広報活動をしっかりと行うことが大切である。
- ・小学校との連携をさらに進めるとともに、小中9ヵ年をかけて地域と豊かにつながることでできる核となっていく。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・これまでの活動の成果と課題を明らかにし今後さらの効果的な活動を進めていきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（生徒会担当教員）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 児童の豊かな学びを地域とともに創造する

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
 ・「進んであいさつをする子どもを育てるために」をテーマに2回熟議の機会を設けた。

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

- ・4年生：地域の方と一緒に福祉体験を行った。車いす体験や点字体験、手話体験を行い、地域での取組も教えていただいた。
- ・6年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動を通して学びを深めることができた。また、直弼公が愛した湖東焼き体験やお茶体験から、調べた内容を実感することができた。



【 4年生 車いす体験 】

(2) 学びを豊かにする学習支援の充実

- ・1年生：交通安全教室では、近隣交番の警察官だけでなく、子ども安全リーダーや学区の交通安全協会の方に来ていただき、通学路を想定したコース設定等により、交通安全への意識を高めることができた。
- ・5、6年生：家庭科の学習では、ミシンの学習支援に地域の方に来ていただき、ミシン糸のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。



【 6年生 湖東焼き体験 】

(3) 地域とつながる

城西学区社会福祉協議会と連携し、地域のお年寄りに児童全員が手紙を書き、各学年の学習や生活の様子を伝えた。また、環境委員会でも「花いっぱい運動」を連携して行い、児童が地域の一員として活躍の機会となった。

- 実施に当たっての工夫

地域学校協働活動推進員にコーディネートしていただきやすいように、担当者が積極的に学校の情報を提供したり、打ち合わせ時期を調整したりした。

- 事業の成果

地域の方の生の声を聞くことで地域への愛情や大事に思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりのみならず、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

中学校ブロック内の地域学校協働活動推進員や地域連携担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、当該年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換できるようにしたい。

今年度、学校運営協議会を導入したことにより、地域学校協働活動推進員の役割を明確にすることができたとともに、運営協議会会員の中で地域学校協働活動について理解が深まり、地域ボランティア募集に向けた気運も高まってきた。

- その他（学校運営協議会との協働等）

学校ホームページ：<https://www.fureai-cloud.jp/jyosei-hikone/>

- 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）  
 報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域に学び、人、もの、自然への愛着心を育てる『城北たんけん ～このまち大好き～』

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城北小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：40人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学 校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行 政 その他

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・学校の応援団として協議会の委員が普段の教育活動も参観する等して児童の様子を見守り、より適切な支援ができる体制づくりに努める。
- ・地域ボランティアの積極的な募集を行う等、人員の確保が必要である。



【3年生 クルーザー体験】

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

(1) 学びを豊かにする学習支援

- ・地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動の充実を図った。  
 ※のぞみ「野菜を育てよう」3年生「クルーザー体験」「市の様子に移り変わり」  
 「ミシガン州立大学連合日本センターってどんなところ？」
- ・全校児童が参加する「ふるさと探訪オリエンテーリング」を地域の方々との協働による活動として実施することができた。

(2) 読書環境の整備（読み聞かせ活動・図書室の整備）

- ・毎週1回の読み聞かせ活動や月1回の図書室の整備（時節にあった飾りや本の紹介コーナーを工夫する等）を、地域と学校が連携して進めることができた。

(3) 学習環境の整備

- ・校地内の樹木の剪定や運動場の整備を協働で行った。



【ふるさと探訪オリエンテーリング】

■ 実施に当たっての工夫

- ・本校の特色ある教育活動である「ふるさと探訪オリエンテーリング」は、地域の方々の協力を得て、異学年による色別の班に分かれて、安全面に留意して実施することができた。
- ・読み聞かせ活動では、大型テレビに絵本を映し出す等、挿絵の見せ方や読み方を工夫していただき、お話の世界に浸ることができた。

■ 事業の成果

- ・学習過程において、実際に地域の方から話を聞いたり一緒に体験活動を行ったりすることで、児童の興味・関心が高まり、学びを深めることができた。また、地域の人と触れ合うことで、地域で出会った際に挨拶する等、人とのつながりが生まれ、地域への愛着が育ってきている。地域の豊かな人材や教育力に、学校教育が支えられていることを痛感した次第である。
- ・地域の方々が支えてくださる活動について、全校放送などを通じて発信し、感謝の気持ちがもてるように努めている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域ボランティアの高齢化、次年度の見通しが十分にもてない状況であることが課題であるが、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層の連携を図って活動を行っていききたい。また、児童が、ボランティアの方々とともに活動したり気軽に話したりする機会を可能な限り設定し、つながりを絶やさない努力を学校として行っていききたい。
- ・地域学校協働本部のリーダーや毎回参加いただいている方々の協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていききたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

- ・活動の様子は本校のホームページに掲載しています。 <https://www.fureai-cloud.jp/jyohoku-hikone/>

■ コーディネーターと協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校 長      ■教 頭      ■地域連携担当教職員      ■その他（学級担任）

報告書記入者（ 教 頭 ）



## 豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：23人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

■学校・園 学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 本校伝統行事「全校ふれあい遠足」における安全指導ボランティア

本校の伝統行事である「全校ふれあい遠足」において、学校から彦根城までの行程の安全指導のボランティアをしていただいた。地域学校協働本部に登録されているメンバーと保護者にボランティアを募り、合計15名の方にお手伝いをしていただいた。各たてわり班に1～2名のボランティアに付き添っていただいた。交通量の多い交差点や彦根城等の観光客の集まる場所での安全確保をすることができた。

また、児童にとっては、地域の方との交流を深めることができた貴重な機会となり、大変充実した活動となった。



【 全校ふれあい遠足 】

#### (2) 学習環境の整備（教材園の整備、学校敷地内樹木の整備）

5月と9月に各学年の花壇整備や特別支援学級の畑の土起こしや土づくり、畝づくり、除草作業などをしていただいた。

丁寧に環境整備をしていただいたおかげで、理科や生活科、生活単元学習などの取組をスムーズに行うことができた。また、正門前や玄関前の花壇には、その季節に合った植物を植えてくださり、子どもたちの学校生活に季節感や彩を添えてくださった。



【 読み聞かせボランティア 】

#### (3) 豊かな言語活動の育成を目指した「読み聞かせ活動」

本校では、豊かな言語活動の育成のために、朝学習の時間を利用して国語の学習を行っている。その言語学習を補足する形で、各月の第1水曜日を「読み聞かせの日」とし、地域ボランティアの方に学年・学級に応じた内容の読み聞かせをしていただいている。

### ■ 実施に当たっての工夫

○年度当初に地域学校協働活動推進員（コーディネーター）から、「コロナ禍後の学校と地域との連携を大切にしよう」という話をいただき、「全校ふれあい遠足」で一緒に歩いていただいたり、12月には「学校クリーン作戦」で校舎内の清掃活動を児童と一緒にしていただいたりした。コロナ禍では活動に制限があったが、本年度はなるべく児童との交流場面が増えるように意図的に計画を立てた。その結果、数多くのコミュニケーションの機会（会話、遊び）が自然に生まれ、人間関係づくりの場を増やすことができた。

### ■ 事業の成果

○地域の方々とつながることで、登下校時の児童の様子など、学校が把握していない情報を共有する機会が増え、児童理解や生徒指導に生かすことができた。地域で子どもを見守り、育てようとしてくださる存在は、大変ありがたく感じている。  
 ○教材園の整備や樹木の整備では、経験や知識が豊富な方がボランティアとして活動してくださっているため、教職員が詳しく知らないことも教えていただき、大変勉強になった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域学校協働本部事業登録メンバーの高齢化と固定化が進んでおり、広く地域に本事業についての情報を伝え、新たな人材を発掘していくことが喫緊の課題である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

○活動の様子を、学校の児童の様子やお知らせとともに、学校ホームページで紹介している。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

## 地域のでつくる子どもたちの豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学区地域学校協働本部	金城小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：70人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 登下校の安全パトロールとあいさつ運動

金城見回り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、あいさつの声掛けやコミュニケーションをとり、子どもたちの安全を見守ってくださっている。

#### (2) 体験活動の支援

1年生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」や3年総合的な学習の時間「むかしのくらしを学ぼう」、特別支援学級の生活単元学習「大藪かぶらを収穫しよう」では学習活動のゲストティーチャーをお願いした。また、4年学校行事「やまのこ」や5年家庭科「ミシンになれよう」の学習活動補助をお願いした。

#### (3) 読み聞かせ

年間を通じて、朝読書の時間に読み聞かせをしていただいた。

#### (4) 花壇づくり

花の苗植えや草むしりなどを委員会の子どもたちと一緒にしていただいた。



【 5年家庭科「ミシンになれよう」 】

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・今年度、地域学校協働活動推進員が交代されたことと、地域連携担当も新任された者だったため、地域のことをよく知る方に随時相談して進めていった。
- ・地域の支援母体である「すこやか金城の会」が主催となる行事に学校やPTA関係からも積極的に参加した。

### ■ 事業の成果

○通学路の見守りをしていただくことで、子どもの安全確保につながっている。また、登下校の様子など適宜伝えていただくことで学校だけでは気付かない実態把握し、即時に指導することにつながった。

○ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材を活かし、充実した学習活動を行うことができた。

○地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じるようになった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○地域学校協働活動推進員が多忙であるために、ボランティアをしてくださる方々とつながることが難しく、橋渡しを学校が行わなくてはならない。

○本事業の取組を、子どもだけでなく、保護者や地域住民に十分に周知していく必要がある。

○ボランティアの高齢化に伴い、活動が広げられなくなっている。ボランティア登録数は多いが、実際に動いてもらえる方がそれだけいるわけではなく、実態がつかみにくい現実がある。来年度からは、ボランティアを広く公募し、登録者を整理し直す必要がある。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

#### ■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当者教職員 ）



【 学校の花壇づくり 】



## つながりを生み出す豊かな学び

彦根市	活動名 : 南中学校区地域学校協働本部	城南小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成23年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:45人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

- 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他( )

- 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)  
 年度当初に、計画書を作成し協議することで、いつ頃のようにご協力いただくか熟議することができた。また、その際には、例年ご協力いただいているボランティアの方と校区の社会福祉協議会の方との活動とかぶらないように気を付けた。

- 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

○就学児検診の際の運営補助

職員の出張や体調不良により、職員の配置が手薄になることが予想されたので、県立大の看護塾等をお願いしたところ3名の方にお手伝いいただいた。専門的な行事のイメージがありボランティアが集まらない傾向があるので、今後も看護塾と連携をとっていきたい。

○読書ボランティアによる読み語り

朝のさわやかタイムに、各教室で読み語りをしていただいた。コロナ禍は、机の場所で聞くようにしていたが、5類に移行され、ボランティアの方の周囲に児童を集めて読み語りをするようにした。児童との距離が近くなり、挿絵なども見やすく、より本の世界に浸ることができた。また、季節や〇〇週間に合わせた本を選んでいただいたり、図書室に読み語りで使った本のスペースを設け、児童や教師が読み返したりできるようにもしていただいた。

○社会福祉協議会の方々による「校外学習引率ボランティア」

2年生や3年生の生活科や総合的な学習の時間地域に出かける際、引率のボランティアをしていただいた。見学場所で小グループで活動できるように、たくさんの方に来ていただいた。また、事前に担任と打ち合わせをし、学習のねらいが共有できるようにした。



【 読み語り 】



【 引率ボランティア 】

- 実施に当たっての工夫

昨年度から校区の社会福祉協議会の方もボランティアをしていただけることになったので、社会福祉協議会の方の強みと長年支えてくださったボランティアの方の強みを考えながらボランティアの依頼をした。

- 事業の成果

- ・児童は読み語りに集中し引き込まれるように聞くことができた。読まれた本に興味をもち、自分でも読もうと図書室で借りる児童がいた。また、日頃から読書に関心をもち、意欲的に本を借りて読む児童の姿につながっている。
- ・今年度も校区内の校外学習の引率にご協力いただき、児童の安全管理においてたいへん助かった。昨年度は、校区の社会福祉協議会の方との連携が初年度で、うまく連携が取れない時もあったが、本年度は、ほぼ計画通り実施することができた。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

長年お願いしていた「幌踊り体験」であったが、インフルエンザなどの流行により、実施してもらうことができなかった。教えてくださる方が感染症を心配されていることもあり、来年度は実施時期を検討する必要がある。

- その他(学校運営協議会との協働等)

学校HP <https://www.fureai-cloud.jp/jyonan-hikone/>

- 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他( )

報告書記入者( 主幹教諭 )

## つなげよう 子どもを育む地域の力 ～地域の力で学びを深める～

<b>彦根市</b>	活動名： <b>南中学校区地域学校協働本部</b>	<b>城陽小学校</b>	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：62人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- ・地域では縦のつながりが希薄になってきているため、学校で縦割り活動等の充実が図られていることはよい。
- ・コロナの影響で体力も落ち、また、コミュニケーションがとりにくくなっているように思う。体験活動を進めていることはよい。
- ・熱中症が心配であるため、今後各行事の時期についてはよく考えていく必要がある。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○読書活動支援

図書環境ボランティア2名の方が週に1度、図書の整理や修繕だけでなく、行事や季節に合わせた図書室内の飾りなどを工夫し、子どもたちが読書に親しめるように活動して下さっている。朝の活動の時間には、各学級で絵本の読み聞かせをしていただいている。また、「秋のお話会」を学年部ごとに実施し、ひこね市児童図書研究グループの方々に、紙芝居や読み語り等をしていただいた。

○第5・6学年 家庭科「ミシンでソーイング」

5年生は、ミシンを使ってのトートバック製作、6年生はエプロン制作に取り組んでいる。特に5年生は初めてのミシン学習であり、使い方を丁寧に指導する必要がある。ボランティアの方々は、近年、続けて来ていただいております、子どもがどのようなところにつまずきやすいかよく把握されている。操作手順を助言したり、苦戦している児童に声をかけたりして、熱心に支援いただいた。6年生にも同様に支援いただいた。

○第1学年 生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」

けん玉、こま、だるま落とし、あやとり、おりがみなどの昔から伝わる遊びを地域の方に教えていただきながらともに遊び、交流した。



【 朝の読み聞かせ 】



【 ミシンボランティア 】

■ 実施に当たっての工夫

コロナ禍もありボランティアバンクの整理が十分でなかったため、次年度以降のために活用状況を一覧表に整理している。

■ 事業の成果

児童は朝の読み聞かせや、毎年実施している「お話会」をととても楽しみにしている。図書室には季節や学習内容に合う本が、見やすくレイアウトされており、読みたい本がすぐ見つかる環境となっている。こららが読書意欲の向上にもつながっている。

また、学習支援は、児童の学びをより充実したものにするだけでなく、教職員数が少ない本校において、教職員の業務軽減にもつながっている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

・学区が広く、小学校区全体をまとめる地域の組織がないことから、学校が中心となって活動を進めていく必要がある。今年から始まった学校運営協議会を生かしていけるとよい。

・児童だけでなく教職員も他学年の活動を具体的に知る機会があまりなく、また、担当以外が地域の方と深く関わる機会がない。顔合わせ会や感謝を伝える場などをもつなど、教員や児童の思いをつなぐ工夫が必要である。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

・今年度より立ち上げ、地域の方と顔を合わせ話し合う機会が増えたことで

願いや思いを共有できた。今後も子どもを中心として話し合い、皆で子どもを皆で守り育てる意識、土壌をはぐくんでいきたい。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ ）



## 未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成23年度 地域学校協働活動推進員等数：4人（兼務2人） ボランティア登録数：20人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 緑のカーテンプロジェクト（取組10年目）

- ・5月上旬に、支柱設置、ネット張り、ゴーヤの苗植えを、地域ボランティアの指導のもとで実施した。
- ・環境委員会や各部活動および地域学校協働活動推進員による水やりを毎日行い、10月上旬に支柱の撤去を行った。
- ・多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。

#### (2) 花いっぱい運動

- ・正面玄関に設置する46個のプランターの花を3の倍数月ごとに植え替えて、常に来客者を花で迎えられるようにした。

#### (3) 学校行事への支援

- ・入学式や体育大会などの学校行事における駐車場整理での保護者とのつながり
- ・全校長距離遠足の際の交差点での交通誘導
- ・校地内の葉刈り作業や、愛校作業への参加



【 緑のカーテンプロジェクト 】

### ■ 実施に当たっての工夫

- ・実施するごとに推進員と担当で、活動の反省と今後の予定について協議した。
- ・推進員と連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。
- ・活動内容を紹介する掲示物を作成して校内に掲示した。
- ・生徒の地域貢献活動カードを作成して、参加したことが形に残るようにした。

### ■ 事業の成果

- ・緑のカーテンプロジェクトは取組10年目になり、生徒や地域の中で定着している。作業を通じて、自分たちの学校環境を自分たちで良くしていく意識づけになった。
- ・多くの地域ボランティアの方に参加していただいたことにより、協働することの大切さや地域の方に支えられていることが実感できた。また、感謝の心もち、地域の良さを知る機会となった。
- ・学校での活動に地域の方が来てくださることで、地域での活動に生徒が安心して参加するようになった。
- ・地域と学校のつながりが発展して、生徒の美術作品を金融機関に飾ったらどうかと地域から声をかけていただき、手配してくださった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。
- ・学校が抱える課題の解決につながるような活動ができないか検討していきたい。
- ・自治会組織が弱体化して地域での交流が減る中で、地域と生徒のつながりはできつつあるものの、地域の方は保護者にもっと参加してほしいと願っておられる。地域学校協働本部事業への保護者参加が、地域と保護者の橋渡しになるように、保護者への周知に力を入れて、もっと参加していただけるように努めたい。
- ・活動に参加したことのない教職員が多いので、今後は教職員にも参加を促して、地域との連携を図り、他の活動へとつなげたい。



【 校内掲示物 】

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 教頭 ）



## 地域力を学校に 学校力を地域力に

彦根市	活動名 : 彦根中学校区地域域学校協働本部	高宮小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務 1人） ボランティア登録数：80人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### (1) 「高宮駅コミュニティセンター」での作品展

地域と学校をつなぐ手段の一つとして、今年度も、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」に子どもたちの作品を展示し、学校と地域の繋がる機会を設けるように努めた。

#### (2) 読み聞かせ活動

毎週火曜日を読み聞かせの日に設定し、地域の方に協力していただき読み聞かせを行っている。

#### (3) 各学年の学習支援

郷土学習の充実に向けての学習支援を行っている。

### ■ 実施に当たっての工夫

#### 【高宮駅コミュニティセンター】

高宮地域には、近江鉄道高宮駅に隣接した「高宮駅コミュニティセンター」があり、定期的に児童の作品展を開催して、地域と学校を繋ぐ場としてきた。絵画や書き初めなど地域で児童の作品を目にすることがあり、地域と学校が身近な存在であることを認識することができた。



【高宮駅コミュニティセンター】

#### 【高宮っ子たんけんたい】

3年生の総合的な学習の時間では、中山道の現状や歴史について知るだけでなく、ふるさとを大切にしたいという町への愛着を高めることを目標に学習を進めている。この学習では、まず高宮の地域を知ることからスタートする。そこで、地域の方と一緒に地域を見て歩いたり、話を聞いたりしながら学習を進めてきた。また交通量が多く道幅が狭い中山道を歩くので、児童が安全に歩行できるように引率の協力もお願いしている。学習を通して、中山道の街並みや、昔の学校の様子などについて理解を深めることができた。



【高宮っ子たんけんたい】

### ■ 事業の成果

本校は、年々地元出身の保護者が減少し、地域の歴史はもとより伝統文化や行事などを知らない子どもが増えている。また、住民同士のつながりも希薄になってきている。本事業を通して、地域住民の多くの方々は、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿を喜んでくださり、好評価である。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもたちだけでなく、保護者、教職員も地域学校協働活動推進員との繋がりが薄い。また、教職員の中には、担当以外の学年の活動を知らないものも多い。保護者（PTA 役員）、教職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、顔合わせ会や運営協議会の開催、感謝の集いなど、職員や子どもたちの思いをつなぐ機会が必要である。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（地域連携担当教職員）

## 地域と学校を結ぶ鳥居本学園の協働活動

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

- 地域住民と中学生の交流の場として、地域の行事（文化祭や公民館行事など）への積極的な参加をお願いしたい。
- 部活動に、地域住民の経験者が指導者になってほしい。
- 自然に触れる体験を大切に子どもたちの心を育ててほしい。地域の持つ魅力を味わわせてほしい。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### （1）男鬼森林学習

学区有林（財産区共有山林）の森林整備作業について学習し、植樹や間伐作業などを実際に体験した。森林の保全と有効な活用との調和について理解することができた。

#### （2）地域との連携

中学校の前庭の葉狩り、剪定及び、芝生グラウンドの夏休みの水やりを実施していただいた。

学区の文化祭において、吹奏楽部の演奏及び、書写や美術作品、総合学習新聞等を展示した。さんあかレンジャーも参加した。また、宿場まつりでは、生徒全員で鳥中ソーランを披露した。



【 男鬼森林学習 植樹 】

### ■ 実施に当たっての工夫

- 森林学習では、地域の山林の保全や活用について理解を深めるため、財産区の方を講師に招き事前学習を行う。
- 学区の文化祭の参加については、打ち合わせを小まめにして、楽器の搬入等が安全に行えるようにした。

### ■ 事業の成果

- 地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生（中学校）がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。



【 学区文化祭 吹奏楽部の演奏 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- 学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。また、3年生の卒業研究で「鳥居本の活性化」をテーマにして、鳥居本の自然や宿場町（歴史）、産業について考察をし、未来につなげていく活動ができた。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

- 1小学校・1中学校で、鳥居本学園として小中一貫型教育を行っている。体育大会や地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（            教頭 ）

## 「ふるさとと共に生きる喜びを」地域とつながる活動の支援

彦根市	活動名 : 鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成21年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容を中心に記入ください。）

総合的な学習（ふるさと学習）等地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるという視点にたち、鳥居本学区の特色を生かした事業の進め方について意見交換をした。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

#### ○ 5・6年生家庭科 ミシンでソーイング

10月に、5・6年生の家庭科で、ミシン学習の支援をしていただいた。初めてミシンを使う児童が多く、ミシンの糸をかけたり、線に沿って縫ったりする作業に時間を要した。ミシンそのものの扱いに慣れていないため、ひとたびミシンが止まったり、糸が絡まったりしたときに、友だち同士では解決できないことも丁寧に教えていただいた。ミシン縫いの楽しさを味わいながら、5年生はエプロン、6年生はナップザックを全員仕上げることができ、生活に役立つ物を作る喜びを一人一人の児童が確かに感じとることができた。



【 ミシンでソーイング 】

#### ○ 読み聞かせ活動・図書室環境整備

地域の方に図書室の環境整備をお願いし、図書室の本の整理や新刊図書の紹介、年中行事に合わせた掲示物のデコレーションなどを行っていただいている。また、毎月2回（火曜日8:15~8:30）、約10名の方に学級毎の読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。本の内容や発達段階により様々な工夫を凝らしていただいております、子どもたちの豊かな心の育成につながっている。



【 図書室環境整備 】

### ■ 実施に当たっての工夫

参加者の募集については、保護者への紙面での募集に加え、自治会を通して地域の方への配布も行い、幅広く募集をかけた。

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の方と年度当初と年度途中で定期的に相談をし、児童の活動を考慮して見通しをもち活動を実施した。

### ■ 事業の成果

学校の事情に添った支援をいただき、子ども達が、地域の人・もの・自然に触れながら、活動を仕組むことができた。活動を通して、児童は地域の人々の温かさや、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを高めることができた。地域コーディネーターが保護者や地域の方々に広く参加を呼びかけることで、支援者の数も徐々に増え特に中学年や低学年の保護者が高学年の学習に加わって下さり、今後の滑らかな人的な引継ぎにつながっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

建設的なアイデアや提案をいただき、地域の豊かな人材や教育力や教材に、学校教育が確かに支えられていることを実感した。次年度の見通しをより効果的な学習を目指し、地域の支えを学校教育に生かせるよう、より一層密に連携して活動を行っていきたい。地域への情報発信を充実し、児童の主体的な学びを後押ししていきたい。

また、地域にある団体（青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会、スポーツ振興会など）と学校とがさらに連携を深めることで、組織的な協力を得て、人材や安全の確保、指導内容の充実を図っていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

鳥居本学園ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/toriiimoto-hikone/> 小中学校の様子をお知らせしています。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ 学級担任 ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域の未来につなぐ学校支援

彦根市	活動名：稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印</p> <p>開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：5人 ボランティア登録数：85人（稲枝中は8人）</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>学習支援（授業補助、学力補充等）           <input checked="" type="checkbox"/>図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）           <input checked="" type="checkbox"/>学校行事支援  <input checked="" type="checkbox"/>子どもの安全確保、見守り           <input checked="" type="checkbox"/>部活動支援           <input checked="" type="checkbox"/>学校周辺環境整備           <input type="checkbox"/>学びによるまちづくり  <input type="checkbox"/>地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）           <input type="checkbox"/>地域行事への参加           <input checked="" type="checkbox"/>ボランティア・体験活動  <input checked="" type="checkbox"/>郷土学習           <input checked="" type="checkbox"/>その他〔地域運動部活動事務局〕         </p>			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

教員の働き方改革に伴い、学校に対する支援についてどのようなことが可能かを話し合った。環境整備、学習支援等今まで当協働本部が取り組んできた事柄に加えて、令和3年度から部活動の地域移行についても、中間総括的に熟議を行った。

その中で、次のことが話題となった。

いつまでも善意によって支えられている事業形態が続くのか。ボランティアのメンバーが固定化し、年とともに高齢化が進む。抜本的に見直す時期が来ているのではないだろうか。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

- ・朝の読書活動支援（読み聞かせ）
- ・特別支援学級の作業学習、生活単元学習にかかる支援
- ・校外学習（地域学習）支援、当日の肢体不自由児に対する支援
- ・稲枝駅周辺環境整備、稲枝サマーフェスタへの参加支援
- ・校庭樹木の剪定、除草等環境整備支援



【 地域の方による校外学習の事前指導 】

### ■ 実施に当たったの工夫

教員の働き方改革が大きな課題となっている時期のため、前年度までに行っていた、勤務時間外の会議をなくした。

コーディネーターが動ける範囲で保幼少中へ出向き、調整を行った。

### ■ 事業の成果

- ・読み聞かせを行うことで、生徒たちの読書に多様性を持たせることができた。
- ・特別支援学級の学習においては、生徒たちが興味を持ち自主的に作業ができるようになった。
- ・インターネット等では調べ難かった事を地域の専門家の話を聞くことで新しい視点を持った。
- ・市の予算でしていただけなかった生垣の剪定ができ、近隣から喜ばれた。



【 地域の方から農作業を学ぶ 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

この事業が発案された頃（団塊の世代が大量退職したころ）は地域や学校に退職者たちの力やノウハウを生かせないだろうかということが一つのテーマであった。しかし今は、働き手不足のために、高齢になっても仕事に従事する方が増えて、ボランティアを募ること自体が困難な状況になっている。

今のところ、前年度までのボランティアに頼る状況である。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

稲枝中学校の学校運営協議会は令和5年度に開設されたばかりということあって、何か協働できているという段階ではないが、運営協議会の会長が、稲枝地区青少年健全育成協議会の会長であることから、地域が望む学校像については明確なビジョンがある。また、当支援協議会は下部組織として稲枝中学校地域運動部活動の事務局を置いているので、過渡期にあると思われる教員への支援や学校づくりへの参画が求められていると考える。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（特別支援学級担任）

報告書記入者（ 地域学校協働推進員 ）

## 子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名： 稲枝中学校区地域学校協働本部	稲枝東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<b>地域学校協働本部概要</b> 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：56人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 [ ]			

- 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）  
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

- 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）  
 ・本校の学校運営方針を基に、読書に親しむ子どもの育成、環境整備や自己肯定感の高まりのために大切なことについて  
 ・地域の力をどう子どもたちの教育に生かすのかについて、各支援・関係団体で取り組める活動の交流

- 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

○読書に親しむ子どもを育成する朝の「読み語り」・図書室の環境整備

地域の「読み語りボランティア」8名の皆さんに、木曜日朝のすこやかタイムに読み語りをしていただいた。また、子どもたちがいろいろな本を手に取りやすいように、図書室の環境整備も進めていただくことで、図書室の学習環境が充実し、子どもたちの豊かな心の育成につなげることができた。

○夢を実現された本校卒業生から学ぶ「教育講演会」

本校卒業生でプロバレリーナ・ダンサーとして活躍されている上林さんをお迎えし、4・5・6年生に「夢をかなえて」～届け！先輩からのメッセージ～と題して、体験談や在校生へのメッセージについて講演いただいた。夢を実現させるためには、普段の生活でできることをしっかりとすることや、思いをしっかりとって決してあきらめないことなどを熱く語っていただき、改めて夢に向かって努力することの大切さを感じることができた。



【 朝の「読み語り」 】

- 実施に当たっての工夫

読み聞かせ時に、実物投影機を活用して本を拡大提示することで、よりお話の世界に浸ることができた。

地域人材を活用した学習や活動について、お世話になった方の所属や名前、活用した教科、内容等を記録に残し、次年度以降に活用できるようにしている。



【「夢をかなえて」～届け！先輩からのメッセージ～】

- 事業の成果

「読み語りボランティア」の皆さんは、本校だけでなく校区の幼稚園や中学校にも行ってくださっているので、子どもたちも安心してお話の世界に浸ることができた。

学校運営協議会のメンバーのネットワークを活用することで、学校のニーズに合わせたゲストティーチャーを紹介いただくことができた。

- 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

学校として年間を通してどのような取組をしていくのか、またどのような人材を求めているのか、積極的に発信して教育活動を実施していく必要があると考えています。

- その他（学校運営協議会との協働等）

本校の取組について、日々の学校生活の様子と併せて稲枝東小学校ホームページにて紹介しています。

<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>

- 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（ ）

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

## 「ALL はえみ」地域とともに、学びの充実をめざして

<b>彦根市</b>	活動名： <b>稲枝中学校区地域学校協働本部</b>	<b>稲枝西小学校</b>	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成20年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：45人 ■学習支援（授業補助、学力補充等） ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他 [ ]			

### ■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他（ ）

### ■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

子どもの活字離れが進んできている。親と子が一緒になって本に親しむ時間を大切にしていきたい。また、コロナ禍にできなかった体験的な活動に積極的に取り組んでいきたい。

### ■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

毎年地域のフラワーサポーターさんと高学年の子どもたちが一緒に花壇づくりに取り組んでいる。メイン花壇だけでなく、サブ花壇や中庭、昇降口など四季折々の花に囲まれている。花の植え替えや、水やりなど、地域の方と共に活動に取り組むことができた。花の栽培活動を通して、命の大切さや、思いやりの心を育むことにつながった。

木工教室では昨年度はコロナ感染症対策のため、前半、後半の2グループに分けて実施したがし本年度は4年ぶりに合同開催をした。約100名の親子が鉛筆立てや本棚など、親子で力を合わせて作成することができた。

各学年の学習内容に応じて、地域の方々から話を聞いたり一緒に体験したりする学習活動を行った。低学年では地域の神社や商店に出かけて話を聞いたり、持ってきてくださった焼き芋を給食の時間に食べたりした。中学年では保護者にゲストティーチャーとして来校いただき、木を使ったものづくりについて学習した。高学年では近所の田んぼを使った田植え体験やニゴロブナの放流体験を行った。



【 花の苗植え 】



【 木工教室 】

### ■ 実施に当たっての工夫

フラワーサポーターとの花壇作りでは、地域学校協働活動推進員と事前に年間のおよその活動計画を共有することで、見通しをもって取り組むことができた。また木工教室では、使用する材料を準備する際に、ある程度の大きさごとに分けて用意することで、時間内に効率よく活動することができた。

### ■ 事業の成果

フラワーサポーターと一緒に種まきや植え替えなど花壇作りに取り組むことで、地域や学校での出来事について自然と交流する場面が見られた。また、学校の花壇は地域の人々にとっても大切な花壇であるという意識が高まり、今後も大切に続けていきたいという伝統意識の育成にもつながった。地域学習等で話を聞いた際には、実物に触れたり、体験を交えた話を聞いたりすることができた。今と昔を比べることで、町の様子や生活の仕方、暮らしやすさなど時代によって変化してきたものや、何十年も変わらずに大切にされてきている場所や思いに気づくことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日程調整や前年度の内容確認、学級担任との連絡調整が難しいことがあった。今年度の活動内容、および反省点について現担任でまとめ、来年度の新担任に確実に引き継げるようにしたい。また、地域学校協働活動推進員と年度当初におよその年間の活動内容について共有することで、計画的に活動を進めていきたい。

### ■ その他（学校運営協議会との協働等）

年間3回の会議を行う。1学期は、学校から学校経営方針の説明をし、交流した。2学期は中間学校評価をもとに、子どもたちの姿や学校のあり方についてご意見を頂いた。3学期は、今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。今年度は実際の活動写真や動画などを示しながら説明することで、子どもの様子や活動内容がよく伝わり、より具体的な内容について交流することができた。

### ■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他（ 担当教諭 ）



## 「子どもたちの笑顔のために」チームわかバンク8年目の取組

彦根市	活動名：若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人） ボランティア登録数：60人 ■学習支援（授業補助、学力補充等）      ■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）      ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り      □部活動支援      ■学校周辺環境整備      □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）      □地域行事への参加      □ボランティア・体験活動 ■郷土学習      ■その他 [ 土曜支援（教室）…第1, 3週の土曜日AM ]			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園      学校運営協議会      地域学校協働活動推進員等      行政      その他（      ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

・地域学校協働本部（わかバンク）の組織について      ・年間の活動内容について      ・育成する児童像について

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

①「若葉の森」の環境整備活動

校地内に植えられている2000本を超える樹木は、「若葉の森」として地域の方にも親しまれている。開校当時からこの「若葉の森」の樹木を学習の題材として、生活科・総合的な学習の時間、特別活動等を中心に樹木に関わる学びを深めている。常設の支援（図書・学習・見守り・広報・土曜）に加え、特設の環境整備部により校地内の葉刈りや剪定、花壇の整備等の支援を充実させることができた。今後も自然豊かな環境を維持し、児童への学びへつなげていきたい。



【環境整備部による葉刈り】

②命を育む栽培活動

これまでから地域の方にお借りしている畑を学校園として、全学年で栽培活動を進めている。この活動の目的は、子どもたちが苗植えから水やり、草取り等、野菜を育てる過程を大切に、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるよう、地域のボランティアさんのご協力をいただいで進めてきた。今年度も地域活動推進員との入念な打合せを行い、教育活動の目的に応じた栽培活動（畝立て、苗植え、収穫など）に支援をいただくことができた。

③地域の高校との協働によるプログラミング学習

これまでから地域のマイスター・ハイスクールである彦根工業高校の建設科と連携を図り愛校運動の一環として中庭テラスの修繕作業などに取り組んできていた。さらに、電気科とも連携を広げプログラミング学習を実施してきた。高校生からは、プログラミングについての話を聞き、実際にScratchを使用してプログラミングに取り組んだ。今後もマイスター・ハイスクールとの連携を図り、キャリア教育へとつなげていきたい。



【プログラミング学習】

■ 実施に当たっての工夫

○地域活動推進員と地域連携担当教員が連携を図り、地域と学校が協働した活動を教育課程に位置付け進めることができた。活動について広く発信できるよう、広報紙を発行したり学校ホームページで紹介したりし啓発を図った。

■ 事業の成果

○地域活動推進員を中心に、「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」「土曜支援」「環境支援」の6つのリーダーが責任をもって進めてくださるため、どの活動も価値ある成果を感じることができた。  
○8年目をむかえ、「地域の方」から「わかバンクの方」へと児童の認知度も高まり、児童とのつながりも深まってきている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

○学校支援メンバーの一部の方に負担がかからないよう、PTAをはじめ、様々な事業所や機関とも連携を深め、長期間を見通した継続性のある活動を進めていきたい。支援メンバーの高齢化も伴い、今後の継続を可能とする組織改編が急務である。保護者への参画を呼びかけ、地域・保護者で子どもの成長を支える活動の充実を進めていきたい。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

○年間4回、学校運営協議会を開催。

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長      教頭      地域連携担当教職員      その他（      ）

報告書記入者（ 教頭 ）

## あたたかい人間関係の中で、自分らしさを発揮して学習に取り組める場を

<b>彦根市</b>	活動名：水曜放課後学習会	<b>東学校</b>	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 年間開催日数：25日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：8人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎でつまづいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。地域の人とつながる場をつくる。

### ■ 特徴的な学習支援内容

生徒の自主性を尊重し、生徒が決めたことをやり遂げられるような支援を心がけた。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら開催。3年生の希望する生徒を対象としたが、2学期には、2年生の生徒から参加希望があったため受け入れた。生徒個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、各自で学習の振り返りを記入し、ボランティアがメッセージを書くなどして交流に活用した。

### ■ 事業の成果

生徒とボランティアとの関係がよく、生徒は安心して積極的に質問し学習をすすめている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

1年生の希望者も受け入れたいが、ボランティアの数が足りないため難しい。多忙な教員との連携が難しく、家庭の事情で家庭での学習が難しい生徒や不登校の生徒など、本来こうした場が必要であろう生徒になかなか届かない。



【 学習会の様子 】

報告書記入者（ 協働活動推進員 ）

## それぞれの「〇〇したい！」にあった支援で、学力アップ！

<b>彦根市</b>	活動名：くろがねもち教室	<b>城東小学校</b>	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 学校（各教室） 年間開催日数：3日（開催ペース：夏季休業中） 平均参加人数：20人／1日		開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人） 学習支援員等 平均人数：4人／1日	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・3年生以上を対象とし、国語、算数の基礎的・基本的な学習内容の定着を目指す。
- ・夏季休業終盤の3日間、8:30から実施。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・1学期の学習状況を参考に、個々の課題に応じた問題等を準備し、取り組む。
- ・各学年2～3人体制で指導に当たり、それぞれの困り感に寄り添った個別の指導・支援を基本とする。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・1学期末個別懇談会で保護者に案内する。
- ・友達同士で話をしたりせず、自分の課題に集中して取り組むようにする。

### ■ 事業の成果

- ・2学期開始直前に設定したことで、夏季休業中の課題について質問をするなど、子ども自身が課題意識をもって参加することができた。また、8:30開始としたことにより、生活リズムを整えるきっかけになった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・下校時の見守り等への協力もいただければ、参加する児童・保護者ともさらに安心感をもてるのではないかと考える。



【個別の支援を受け、安心して取り組む】

報告書記入者（ 地域連携担当教員 ）

## 個に応じた学習支援～「わからない」を大切に 明日の授業に自信と楽しみを～

<b>彦根市</b>	活動名： <b>さわやま教室</b>	<b>佐和山小学校</b>	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：		開始年度：令和3年度	
年間開催日数：18日（開催ペース：月2～3日）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）	
平均参加人数：14人		学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

佐和山小学校高学年児童で、主に算数科で学年相当の学習にしんどさが見られる児童を対象に、学力の向上を目指して学力補充をしている。

### ■ 特徴的な学習支援内容

学校（担任や担当教員）と連携を取り、児童一人一人の学習課題を把握し、学習計画を立てる。学習進度に合わせて予習・復習を行う。学年別に担当する学習支援員を大まかに決めて、できるだけ同じ支援員が指導・支援にあたることで子どもたちが安心して聞ける関係づくりに努めた。少人数での学習形態で一人一人の弱みを補充するため、子どもたちも達成感が得やすく、わかることが意欲につながり楽しく学習に取り組んでいる。



【 学習の様子 】

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

高学年の希望者が対象。学期ごとに参加希望者を募り、保護者と担任で話し合って参加日程を決めている。

### ■ 事業の成果

昨年度申し込んで学習への理解の深まりと楽しさを実感した児童が、今年度も申し込み、積極的に学習に取り組んでいる。「わかる」ことの楽しさが日々の授業への意欲にもつながっている。また、少人数で自分のペースに応じた学習ができるよさを体験し、コツコツと学習を積み上げられることを子どもも自身が感じて前向きに学習に取り組んでいる。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

学習支援員の人材確保が難しい。昨年度からの継続で確保できているところはあるが、少人数での個別支援という学習形態を続けていくためにも、安定した人数の保障についてよりよい手立てを模索していく必要がある。

報告書記入者（ 学ぶ力向上推進リーダー ）

## 「あなたの未来のために学力向上をめざしませんか？」 来たれ！ 未来塾

<b>彦根市</b>	活動名： <b>学力補充教室</b>	<b>西中学校</b>	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：被服室・理科室		開始年度：平成26年度	
年間開催日数：22日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）	
平均参加人数：15人		学習支援員等 平均人数：5人	
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

・学力補充を目的とした学習教室を開催した。放課後や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が個別の学習指導を行った。

### ■ 特徴的な学習支援内容

・元教職員の学習支援員を動員し、豊富な経験と高い指導力を生かして生徒の学力向上を図った。  
 ・各自が学習課題を自身で準備することで、生徒の目的意識を明確にした。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

・全学年を対象にして、自主的に取り組める希望者を募り実施した。  
 ・夏季休業中は、各学年の学力補充教室と連携して実施した。  
 ・2会場で学習会を実施し、集中して学習ができる対策を行った。

### ■ 事業の成果

・個に応じた学習支援が実施でき、学習意欲の向上が図れた。  
 ・地域の方との交流が深まった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・学習支援員の高齢化が進み、人材を確保することが難しくなりつつある。  
 ・学生の支援員としての意識が低く、参加率が悪かった。

### ■ その他

・特別な支援を必要とする生徒への指導者側の学習支援スキルを高めていくための体制を検討する必要がある。



【放課後学習教室】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

※該当する事項に■印

彦根市	活動名：放課後バックアップ教室	城西小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所： 年間開催日数：16日（開催ペース：週1日） 平均参加人数：15人		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務0人） 学習支援員等 平均人数：3人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：■平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 □地域住民 ■大学生 □NPO等関係者 □その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・算数科の基礎・基本の定着に向け、個別指導を主とした教室を4～6年生の希望者を対象に年間16回開催した。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・プリントやドリルの内容を基本とし、個別指導を主とした学習支援を行っている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・下校時、保護者が確実に迎えに来られることを確認し、迎えが可能な児童のみ参加できることとした。

### ■ 事業の成果

- ・児童に個別に対応することができるため、その児童が持つ困り感に寄り添い、理解を深められることができた。



【 6年生のバックアップ教室 】

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。

報告書記入者（ 教 頭 ）

## 夏休みきらり学習教室 ～個別指導による学力補充学習～

彦根市	活動名：夏休みきらり学習教室	城北小学校	学校運営協議会：■有 □無
主な活動場所：教室 年間開催日数：3日（開催ペース：年3日） 平均参加人数：60人		開始年度：平成26年度 地域学校協働活動推進員数：1人 学習支援員等 平均人数：4人	
・学習形態：■個別の学力補充 □教材を使った一斉学習 □その他（ ） ・教室の持ち方：□平日放課後実施 □土曜日実施 ■長期休業日実施 □その他（ ） ・学習支援員等の属性：□企業関係者 □行政職員 ■元教職員 ■地域住民 □大学生 □NPO等関係者 □その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・実施日時：夏季休業中の3日間、（7月21日（金）24日（月）25日（火））、いずれも8:30から10:00まで
- ・目 的：算数科を中心とした、個別の学力補充

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・算数科に絞り、個々の児童の苦手とする課題や児童が高めたいと考える内容について、補充指導や問題演習を行った。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心とした。

### ■ 事業の成果

- ・地域の方々の協力のおかげで個別対応が可能となり、つまづきを的確に把握し、スモールステップできめ細かに支援することができた。本学習を通して、子どもたちは「分かった!」「できた!」という思いを実感し、学習への意欲を高めることができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・さらに充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めていきたい。



報告書記入者（ 教 頭 ）

## 来てみる・やってみる 「土曜教室・てみる」

彦根市	活動名 : 土曜教室・てみる	中央中学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 理科室 年間開催日数 : 7日 (開催ペース : 月1~2日) 平均参加人数 : 15人		開始年度 : 平成26年度 地域学校協働活動推進員等数 : 1人 学習支援員等 平均人数 : 8人
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input checked="" type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input checked="" type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要と目的

子ども達への学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来になりたい姿を見つけることをねらいとしている。

### ■ 特徴的な学習支援内容

1対1または子ども2人に指導者1人とし、学習支援員との関係づくりを大切に、生徒のやる気を尊重した学習の動機付けとなる学びの場をつくっている。2時間の学習時間の合間に、生徒と支援員の交流の時間を設定して、話をしたり、カードゲームなどを一緒に行ったりすることで、よりコミュニケーションが深まるようにしている。この交流を楽しみにしている生徒も多く、ここでの温かみで励ましのあるふれあいから生徒の自尊感情の高まりなども期待している。



【1対1を基本として実施】

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校生徒に案内を配布し希望を募っている。開設日は、部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して調整している。毎回、実施後に地域コーディネーターが中心となり学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わりの質の向上につなげている。

### ■ 事業の成果

個別指導により、つまづきを的確に把握しながら学習支援を行い基礎学力の定着を図ることができている。特に、3年生の受講者が多く、各自が考えている受験先の学習に対応することで、進路の実現につなげることができている。また、休日の午前中に開催することで、生活リズムを整え学習習慣の定着にもつながっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

活動推進員や学習支援員の確保、企画・運営ができるコーディネーター確保が必須である。

報告書記入者 ( 教頭 )

## 子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

彦根市	活動名 : 学び育ちLL教室	中央中学校 学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 中地区公民館 年間開催日数 : 44日 (開催ペース : 週1日、月4回) 平均参加人数 : 14人		開始年度 : 平成24年度 地域学校協働活動推進員等数 : 1人 学習支援員等 平均人数 : 10人
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input checked="" type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input checked="" type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要と目的

毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来になりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

### ■ 特徴的な学習支援内容

マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切に、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校生徒に案内を配布している。また、活動状況はフェイスブックから発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。

### ■ 事業の成果

個々の学力やモチベーションにあわせて学習を進めることで主体的に取り組む場となっている。また特別な支援を要する子どもや生活面での課題を抱えている生徒も参加し、他者とかかわったり自分を見つめたりする時間となり、地域での居場所づくりになっている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備と教材の保管場所確保が課題である。



報告書記入者 ( 教頭 )

## 放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名：南中未来塾「水曜ゼミ」	南中学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所：南中学校区		開始年度：平成29年度
年間開催日数：15日（開催ペース：週1日）		地域学校協働活動推進員数：1人（兼務1人）
平均参加人数：15人		学習支援員等 平均人数：4人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要と目的

○放課後学習「水曜ゼミ」（11～2月）は、3年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身に付けるために、プリントを使って学習している。基本、週に1回のペースで実施している。

○未来塾事業を活用した夏休み補充教室は、実施していない。

### ■ 特徴的な学習支援内容

学習支援員は、教員や地域の住民、近隣に在籍している大学生が中心となり、個別の学習支援にあっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容プリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。



【大学生から学ぶ生徒の学習の様子】

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

水曜ゼミは受験を控えた3年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。近隣の大学生や本校卒業生への連絡、また地域学校協働活動推進員による地域への声掛けや連絡により、学習支援員の確保にあっている。

### ■ 事業の成果

家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携し、学習支援員が確保できる体制も今後検討したい。また生徒用学習者用端末の活用についても検討を進めていきたい。

報告書記入者（ 教頭 ）

## 夏休み前補充学習教室

彦根市	活動名：亀山補充学習教室	亀山小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：かめやまホール		開始年度：令和2年度
年間開催日数：3日（個別懇談期間中）		地域学校協働活動推進員等数：1人
平均参加人数：18人		学習支援員等 平均人数：6人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室の持ち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

### ■ 活動の概要と目的

昨年度までは、夏季休業中の3日間に全校児童に参加希望を募って、学習教室を実施していた。参加希望者が多く、意欲的に学習できたが、今年度は、個別の学力補充というところに重点を置いた学習教室を計画、実施した。

### ■ 特徴的な学習支援内容

・学習支援員一人に児童2～3人が教えてもらうことができた。・一人一人に応じた課題を準備し、学習を進めた。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

開催時期として、児童の登下校を保護者の方をお願いするうえで、夏季休業中よりも課業日の方が送迎していただきやすいのではないかと考え、個別懇談中の3日間に設定した。個別懇談の放課後であれば、学習時間も十分確保することができ、保護者の方にも送迎をお願いしやすいと考えました。参加については、算数科で4年生以上とし、少人数で個別に学習の補充ができるようにした。また、課題については、一人一人の学習状況に応じた課題に取り組めるように、担任が問題を精選した。

### ■ 事業の成果

募集人数と補充教室での学習内容を限定したことで、学習支援で来ていただいた地域の方と担任外の教務・管理職で2～3人ずつの児童の学習支援を行うことができた。児童は、わからないところがあるとすぐに聞くことができたり、解答をすぐに確認してもらうことができたりするので、「わからない」が「わかる」になり、意欲的に学習に取り組むことができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

開催時期の検討や学習支援に協力いただける方の確保について、考えていく必要がある。

報告書記入者（ 教頭 ）

## 学びを育む学習会

彦根市	活動名 : 彦根中地域未来塾	彦根中学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 被服室 年間開催日数: 42日 (開催ペース: 週2日) 平均参加人数: 18人		開始年度: 平成29年度 地域学校協働活動推進員等数: 0人 学習支援員等 平均人数: 3人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室の持ち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- \* 毎日の授業だけでは十分に学力が定着しない生徒も多く、何を学習してよいのかわからない生徒も多数いる。そこで、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- \* 夏季休業中の補充教室や質問教室では、全学年で5日間開催し、生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が行った。
- \* 3年生の放課後学習会では、10月から毎週火・木曜日を基本にして、生徒が持参する学習教材に対する支援を、学習支援員と教員が行った。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- \* 3年生の放課後学習会では、参加希望者が多かったので曜日でメンバーを分けて実施した。

### ■ 事業の成果

- \* 学習支援員に積極的に質問したり終了時刻になっても続けようとしたりするなど、勉強に対する意欲が高まった。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- \* 地域学校協働本部事業に関わる地域の方にも学習支援員として参加してもらえるように、方法を模索したい。



【 3年生放課後学習会 】

報告書記入者 ( 教頭 )

## 算数科学習支援教室

彦根市町	活動名 : 5年生学習支援教室	河瀬小学校	学校運営協議会 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所: 5年生教室・少人数教室 年間開催日数: 10日 (開催ペース: 週5日) 平均参加人数: 30人		開始年度: 平成23年度 地域学校協働活動推進員等数: 2人 学習支援員等 平均人数: 2人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (プリント等採点) ・教室の持ち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性: <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

- ・ 5年生算数科の学習支援を行い基礎学力の定着を図る。
- ・ 学習に自主的に、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・ 算数の基礎的な学力の補充 ・ プリントを採点する。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・ 今年度本校に教育実習に来た実習生に声をかけ、学習支援を依頼した。
- ・ 5年生の学習に合わせて支援をもらった。2学期末は、既習学習の復習を中心に支援をしていただき、3学期は、面積の学習に特化してクラスごとに支援をしていただいた。

### ■ 事業の成果

- ・ 休み時間を利用し担任が1人で復習や定着度合いを見取っていたが、2人体制で指導することで個々の学力に応じた効率的な支援をすることができた。
- ・ 2学期末の復習の時期に設定することで、これまでの学習でのつまずきに気づき、解き方の再確認ができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・ ここ数年、支援員を教育実習生にきてくれた学生にお願いしている。子どもとの年齢も近いこともあり、子どもにとって親しみやすい存在であり、学習について聞きやすい存在となっている。今後も、実習生を中心に声をかけ支援員の確保に努めたい。
- ・ 休み時間の学習補充教室以外にも、学習支援をしていただく機会を模索していきたい。



【 復習プリント チェックしてもらう児童 】

報告書記入者 ( 地域連携担当教職員 )

## 地域とともに育てる子どもの学ぶ力

彦根市町	活動名：学力向上教室	高宮小学校	学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
主な活動場所： 年間開催日数：2日（夏季休業中） 平均参加人数：60人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		開始年度：令和3年度 地域学校協働活動推進員等数：0人（兼務〇人） 学習支援員等 平均人数：2人	

### ■ 活動の概要と目的

- ・基礎学力の定着及び学力のさらなる向上を図る。
- ・学習習慣の定着とともに、学習に自主的、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

### ■ 特徴的な学習支援内容

- ・国語と算数を中心に補充学習を進める。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- ・前半後半の2つのグループ制にした。前半は、基本コースとし、授業の復習や夏休みの宿題に取り組んだ。後半の応用コースでは、発展問題に取り組んだ。

### ■ 事業の成果

- ・少人数の学習の機会としたことで、個々の学力に応じた支援ができた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- ・より充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めたいが、予算的に厳しい状況である。



【 学力向上教室 】

報告書記入者（ 地域連携担当者 ）

## 地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名：学力補充教室	鳥居本中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：各教室 年間開催日数：10日（開催ペース：夏休み） 平均参加人数：10人 ・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・教室のもち方： <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ） ・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input checked="" type="checkbox"/> その他		開始年度：平成24年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 学習支援員等 平均人数：2人	

### ■ 活動の概要と目的

生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

### ■ 特徴的な学習支援内容

#### ○ 基礎的な学力の補充

長期休業中に出される英語、数学、国語、理科、社会の課題（ワーク、タブレットドリル）の基礎的な問題やわからない問題を中心に個別支援している。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

- 学力の補充が必要な生徒に、教員が参加勧誘の声をかけた。
- 学習支援員の人数に偏りが出ないようにスケジュールの調整をする。

### ■ 事業の成果

- 生徒は、わかりやすく教えてもらっていると好評である。
- 地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。
- 学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

- 学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる地域の方をどのように発掘するかが課題である。
- 平日の放課後等の実施は、行事や時間設定、人員の確保という面から、なかなか難しい。

### ■ その他



【 夏休み補充学習 】

報告書記入者（ 教頭 ）

## 輝く笑顔 一人ひとりの「わかった!」をめざして

彦根市	活動名 : 夏休み国語算数教室	鳥居本小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 鳥居本小各教室		開始年度 : 令和2年度	
年間開催日数 : 3日		地域学校協働活動推進員等数 : 1人 (兼務0人)	
平均参加人数 : 20人		学習支援員等 平均人数 : 3人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
・教室のもち方 : <input type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input checked="" type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

国語科・算数科の基礎基本の学力の定着を目的として、夏季休業中の3日間(7月21日(金)、24日(月)、25日(火))、いずれも、8:30から10:20まで実施した。

### ■ 特徴的な学習支援内容

基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきに個別に対応し、「わかった」を実感できるよう、きめ細かな支援をする。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

個別指導が望ましい児童への、担任からの呼びかけにより参加を募り、個に応じた学習を進め子どもの自信につなげた。

地域学校本部事業にいただいた意見を組み入れ連携して事業を実施した。実施した様子についてもまた、学園運営協議会等においても伝えるようにした。

#### ■ 事業の成果

学習そのものに苦手意識があり、基礎基本の積み上げが困難な児童が参加しているため、スモールステップの学習活動を仕組み、褒め認める言葉がけにより成就感や達成感を実感できるよう支援した。その結果、一つ一つを積み上げることの大切さを目にする児童の姿も見られた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

よりきめ細かな対応が充実するよう、支援いただける方の確保に努めたい。



【 夏休み国語算数教室 】

報告書記入者 ( 教頭 )

## 生徒と指導者、生徒同士で教えあい、学びあう態度を培う学習塾

彦根市	活動名 : 地域未来塾	稲枝中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 稲枝中学校多目的室、図書室		開始年度 : 平成28年度	
年間開催日数 : 21日 (開催ペース : 週1・月4日)		地域学校協働活動推進員等数 : 4人 (兼務2人)	
平均参加人数 : 15人		学習支援員等 平均人数 : 4人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

中学3年生の受験対策、塾等に行かない生徒の学力補充

### ■ 特徴的な学習支援内容

中学生同士で教え合いをし、指導者が支援をする。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

稲枝中学校第3学年に依頼して参加生徒を募集

### ■ 事業の成果

ともに学ぶ姿勢が身に付き、自主性が育ってきた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

生徒の参加者を例えば、「貧困のため塾に行けない」「低学力」等、制限を設け、支援体制をはっきりさせる、逆に学校で勉強したい者はだれでも参加できるなど、目的を明確にできればと思う。



【 熱心に学習する生徒 】

報告書記入者 ( 地域学校協働支援員 )

## 子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」

彦根市	活動名 : かがやき教室	稲枝東小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 : 音楽室		開始年度 : 平成 30 年度	
年間開催日数 : 10 日 (開催ペース : 月 1、2 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 5 人 (兼務 1 人)	
平均参加人数 : 25 人		学習支援員等 平均人数 : 5 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

3・4・5年生の児童を対象に、6月より月に1、2回程度の学力補充の時間を計画した。

### ■ 特徴的な学習支援内容

担任からの聞き取りをもとに、事前に児童がつまづきを感じている学習内容を何種類か選び、プリントを作成する。児童は、自分の課題に合った学習内容を進め、学習支援員は児童の困り感や質問に応じて、個別の学習支援を行った。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

基礎的・基本的な内容に絞り、参加を呼び掛けた。併せて、個別に支援することで伸びが期待できる児童にも担任から声をかけて参加を促した。

### ■ 事業の成果

担任からの聞き取りをもとに学習プリントを絞り準備したことで、苦手な内容の克服に一定の成果が見られた。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

少人数のよさを生かして個に応じた支援ができたが、人数が増えたとその効果がやや弱くなる。年間を通して個の成長を記録して見取るまでは、今後の課題である。

### ■ その他

本校の取組について、日々の学校生活の様子と併せて稲枝東小学校ホームページにて紹介しています。

<https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/>



【 学習支援の様子 】

報告書記入者 ( 地域連携担当教員 )

## わくわく はえみ学習

彦根市	活動名 : ホップタイム	稲枝西小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所 :		開始年度 : 令和 2 年度	
年間開催日数 : 13 日 (開催ペース : 月 1~2 日)		地域学校協働活動推進員等数 : 0 人	
平均参加人数 : 21 人		学習支援員等 平均人数 : 6 人	
・学習形態 : <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・教室のもち方 : <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他 ( ) ・学習支援員等の属性 : <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO 等関係者 <input type="checkbox"/> その他			

### ■ 活動の概要と目的

・確かな学力の定着と苦手な学習内容の復習

### ■ 特徴的な学習支援内容

・一つの学級を2グループに分け、各グループに2名の指導者を配置した。課題は学習内容に合わせて難易度を分けて用意したり、教科書、ドリルの問題を使用したりした。

### ■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

・学年の学習内容や定期テストに合わせて学習課題を準備することで、子どもたちも目標をもって取り組むことができた。また、学級での既習内容について確かめたり振り返ったりすることもできた。

### ■ 事業の成果

・1クラス10~13名の少人数で実施し、教員を2名配置することで、充実した個別学習支援をすることができた。また、子ども同士で教え合ったり、励まし合ったりする場面も見られ、難しい問題でも自分の力で最後まで取り組もうとする粘り強さが育ってきている。

### ■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

・学期ごとの日程調整や内容確認を早めに行ったことで計画的に取り組むことができた。

### ■ その他



【 ホップタイム 】

報告書記入者 ( 地域連携担当職員 )

「できる・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学意欲を高める

彦根市	活動名：ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校 学校運営協議会： <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
主な活動場所：2年教室・4年教室		開始年度：平成27年度
年間開催日数：50日（開催ペース：週2日）		地域学校協働活動推進員等数：1人（兼務0人）
平均参加人数：5人		学習支援員等 平均人数：2人
・学習形態： <input checked="" type="checkbox"/> 個別の学力補充 <input type="checkbox"/> 教材を使った一斉学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
・教室の持ち方： <input checked="" type="checkbox"/> 平日放課後実施 <input type="checkbox"/> 土曜日実施 <input type="checkbox"/> 長期休業日実施 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
・学習支援員等の属性： <input type="checkbox"/> 企業関係者 <input type="checkbox"/> 行政職員 <input checked="" type="checkbox"/> 元教職員 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 大学生 <input type="checkbox"/> NPO等関係者 <input type="checkbox"/> その他		

■ 活動の概要と目的

少人数による個別指導で「できた・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学ぶ意欲を高められるようにする。

■ 特徴的な学習支援内容

課業日の月曜日（1～3年）水曜日（4～6年）、学期ごとに参加児童を募集し定員を8名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数科を中心に宿題をしたり個に応じた課題（プリント等）を準備して実施したりし個別の進捗で学習を進める。

■ 参加者の募集や事業実施に当たっての工夫

全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、4～7名という少人数で実施している。

■ 事業の成果

学習に苦手意識のある児童、集団の一斉学習では学習内容の習得が困難な児童への個別支援が充実した。分からないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「できる・分かる」という実感をもたせることができた。また、個別に復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

■ 事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて

支援の必要な児童が参加を希望しない場合があり、募集の仕方を工夫する必要がある。効果があることを知らせ、児童へ声をかけるとともに、懇談会などを通して保護者に直接声をかけていきたい。また、学習支援者と担任との打合せを充実させるなど連携を一層、密にしていける必要がある。

■ その他

地域学校協働活動推進員のご尽力により現在の学習支援者にお世話になることができているが、今後の人材確保も課題となっている。

報告書記入者（ \_\_\_\_\_ 教頭 \_\_\_\_\_ ）



## 家庭を支え、学校とつなぐアウトリーチ型家庭教育支援事業 (旭森小学校)

彦根市	本事業実施年度 令和3年度
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援体制の構築</li> <li>■ 家庭教育を支援する取組</li> <li>■ 訪問型家庭教育支援活動の実施</li> </ul>	
年間活動日数 (のべ)	( 100日 )

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A : 家庭教育支援チーム数	( 1 ) チーム
B : 家庭教育支援員数	( 5 ) 人
C : 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( 1 ) か所
D : 前項 (C) の配置場所名	(旭森小学校)

### ■ 活動の具体的内容

#### ○地域人材の養成等

地域の教育関係者、子育て経験者等、児童の支援や家庭の悩みに寄り添うことのできる人材の発掘を行う。

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動等

スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当、生徒指導担当、管理職

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

今年度は5人のチームとなり、全員が集まったの連絡会議が難しいため、適時スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員、教育相談担当教員、生徒指導担当教員、校長、教頭が参加して本事業の趣旨の確認や支援する家庭の絞り込みを行った。定期的にチーム会議を開催し、進捗状況や今後の計画等について家庭教育支援員相互や学校との情報交流を行った。日常的にも教育相談担当が窓口となり、児童や家庭の様子を情報共有するようにした。

#### ○訪問型家庭教育支援の実施等

不登校児童の家庭への訪問支援、家庭支援に必要な児童の登下校の守りと保護者への声かけを週1回程度行った。保護者の不安や悩みについて話を聞いたり、児童と一緒に登下校したりした。初めは緊張気味だった児童や保護者も、家庭教育支援員といろいろな話をしながら一緒に歩いて登校することで打ち解け、安心につながっている。



【連絡会議の様子】

### ■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

○家庭教育支援員ごとに訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○連絡会議にスクールソーシャルワーカーにも同席していただき、アドバイスをいただくことで、より適切なアセスメントや支援につなげるようにした。

○学校の教育相談担当を窓口とすることで、学校での様子や家庭での様子をお互いに共有し、次の支援の方向性についても相談することができた。

### ■ 事業の成果

○定期的な家庭訪問が刺激となり、保護者が自ら子どもを送り出そうとする姿勢が大幅に増えた。

○家から学校まで家庭教育支援員といろいろな話をしながら登校することで、児童の不安が軽減し、登校機会が増えた。登校後もしばらく傍らに付き添うことが児童の安心につながった。

○定期的に保護者と関わることで、保護者と家庭教育支援員が人間関係を築くことができ、訪問した際に子育ての困り感なども話して下さるようになった。

○家庭教育支援員に学校内でも関わっていただくことで、児童との信頼関係を築くことができ、安心して登校することにつながった。



【家庭教育支援員による児童支援】

### ■ 事業実施上の課題

○児童の状況は日々変わることがあるので、定期的な訪問形式では突発的な事象への対応が難しい時もあった。

○今後は、支援対象の家庭を増やすことも視野に入れていく。

報告書記入者 ( 教頭 )

彦根市	本事業開始年度 令和4年度
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数 (のべ)	(160日)

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A: 家庭教育支援チーム数	( 1 ) チーム
B: 家庭教育支援員数	( 1 ) 人
C: 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所	( 1 ) か所
D: 前項 (C) の配置場所名	金城小学校 (ベース校) 平田小学校 (派遣校)

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

支援が必要な家庭を訪問し、児童に登校準備の声かけ、母親にも朝の送り出しの支援をしてもらっている。訪問することで 家庭の状況がよく把握できる。どんな支援が必要か考え、子育て支援課や学校に伝えてくださることで、活動に見通しがもてている。

○家庭教育支援チームの設置・実践等

地域の民生児童委員の方に、支援員として依頼をしている。民生委員としてこれまでずっと気にかけてくださっている家庭であったことから、子どものためなら、と一生懸命支援してくださっている。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

定期的にケース会議を行い、子育て支援課、家庭教育支援員、学校で、支援家庭の状況、児童の学校での様子など、情報共有を行い、成果と課題について話し合っている。

○学習講座・行事の実施等

公民館で「朝ごはんプロジェクト」を開催している。地域の方と保護者が気軽に話せる機会になったり、児童に登校するきっかけになったりしている。

■ 実施に当たっての工夫

○学習発表会や音楽学習発表会など、学校行事を知らせ、参観していただき、支援児童の学校での成長の様子を見てもらえるようにした。何より児童の成長を見ることが、支援員の方にとっては大きな励みになり、モチベーションにつながるようで、大変喜んでくれた。

○訪問する家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○定期的に支援児童の担任と話す機会をもち、児童の様子を共有することで、効果的な支援ができた。支援員と担任が同じ方向で支援していくことで相乗効果が得られることがあった。

■ 事業の成果

○毎日のように支援員と保護者と顔を合わせることで、保護者との信頼関係が強まり、母親のよき相談相手になっている。保護者や児童の心の安定につながっている。

○昨年度 (1年児童) は、母親が児童を自転車に乗せて学校まで送ってきていたが、支援員の毎日の登校支援により、自力で歩いて登校できるようになった。

○学校が行っていたこと (朝の訪宅など) の一端を担ってもらえ、大変助かった。また、安心して依頼できる方なので、今後もお願いしていきたい。

■ 事業実施上の課題

○現在は支援員が1名で、支援家庭にこれまで長らくかかわってくださった方である。その方に任せている部分が大きく、今後は他に支援員として新しい人材を見つけること、そして、支援対象の家庭を増やすことも視野に入れていきたい。

彦根市	本事業開始年度 令和4年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容		A：家庭教育支援チーム数	( 1 ) チーム
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施		B：家庭教育支援員数	( 2 ) 人
年間活動日数 (のべ)		C：家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( 2 ) か所
( 40 日 )		D：前項(C)の配置場所名	金城小学校(サテライト校) 平田小学校(派遣校)

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等（保護者からの相談への対応、保護者に対する情報提供、専門機関への橋渡し等）  
 保護者および児童と支援員との顔合わせを行った上で、曜日を決めて週一回程度訪問し、朝の送り出しの支援を行った。初回は、支援員と学校教職員の複数で訪宅し、次回からは支援のみで訪宅していただくようにした。

○地域人材の養成等

地域の民生児童委員、教育関係者、子育て経験者等、児童の支援や家庭の悩みに寄り添うことのできる人材の発掘を行う。

○家庭教育支援チームの設置、実践等

地域の民生児童委員の方に支援員としての依頼をし、事業内容について説明した。

家庭教育支援チーム（管理職、主幹教諭、家庭教育支援員、生涯学習課、必要に応じて：生徒指導担当、教育相談担当、特別支援コーディネーター、SSW）

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

家庭教育支援員と学校管理職で、取組状況や成果と課題についてその都度話し合った。3学期には、今後の活動内容についても話し合い、次年度入学予定の保育園や幼稚園、こども園に通う気になる家庭へも必要に応じてアプローチしていく。

○保護者に対する情報提供等

支援が必要と思われる家庭に対しては、事業と支援者（家庭教育支援員）についての話をし、理解を得た。また、実際に担任や管理職と支援者宅を訪問して、家庭教育支援員との顔合わせを行った。

■ 実施に当たっての工夫

○家庭教育支援員ごとに訪問していただく家庭を決め、継続した支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くことができた。

○支援の方向性を相談するために、学校での様子や家庭での様子をお互いに共有し合うことを意識した。

■ 事業の成果

○児童や保護者との関係を築くことで、児童が安心して登校するためのネットワークが広がった。

○定期的に保護者や児童と関わることで、保護者と家庭教育支援員とが人間関係を築くことができた。その結果、保護者自身が困り間や相談ごとを学校に知らせてくださるようにもなった。家庭教育支援員が家庭と学校をつなぐパイプ役になってくださった。

■ 事業実施上の課題

○今後、支援が必要となる家庭が増えていくことが予想されるので、家庭教育支援員を継続して確保することができるような体制をどのようにしていくのが課題である。

○福祉関係機関との連携を深めていくことが必要であると思われる。

報告書記入者（ 地域連携担当教職員 ）

彦根市	本事業開始年度 令和5年度
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育を支援する取組 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数 (のべ)	( 60 日)

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A : 家庭教育支援チーム数	( 1 ) チーム
B : 家庭教育支援員数	( 1 ) 人
C : 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	( 1 ) か所
D : 前項 (C) の配置場所名	(城南小学校)

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

今年度初めての事業となるため、ある程度支援する家庭を絞り、まずは児童・保護者と支援員とのつながりをもつことを重視した活動を進めてきている。また、家庭訪問（児童の登校の迎え）を中心に事業を展開しているが、それ以外に学校生活の中での生活支援、学習支援を行うとともに、様々な学級を巡回し、支援員の存在を児童に広く周知するようにしている。

○家庭教育支援チームの設置、実践等

地域の主任児童委員（兼学校運営協議会委員）の方に事業内容等を説明し、支援員としてご協力いただけないか依頼をした。日常生活に無理がない範囲で活動することを確認し、今年度の取組がスタートした。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

年度当初に連絡会議を開催し、家庭教育支援員、教育相談担当、虐待対応担当、子育て支援課、母子支援センター、校長、教頭が参加して、本事業の趣旨や支援する家庭の絞り込み、各関係機関等からの情報共有を行った。日常的には、教育相談担当が窓口となり、関係機関との連携を密に取るようにしている。

○保護者に対する情報提供等

支援を要する保護者・児童については、年度当初の連絡協議会以外にも、適宜家庭や児童の情報共有を図っている。また、関係機関との連携も密に取り、それぞれの機関がもっている情報を集約しその状況に合わせた支援の在り方を検討するようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

○今年度は初めての事業でもあり、支援員と児童、保護者のつながりを少しでも築くように活動を進めている。そのため、訪問時は教育相談担当教員と必ず行くようにし、相手側の保護者が安心して話ができるようにしてきた。

○支援対象の児童、家庭を広げず、ある程度絞った形で活動を進めている。

■ 事業の成果

○家庭教育支援員との情報共有を密に取ることにより、その家庭、児童にあった支援の在り方をともに考えることができた。

○家庭訪問だけでなく、教室での見守りや生活支援、学習支援を行うことにより、普段なかなか登校できていない児童に対して、個別に支援することができ、児童にとっても安心感をもつことができた。

■ 事業実施上の課題

○支援員が定期的に家庭訪問をしてくださっているが、保護者の生活習慣にも課題が見られ、面会できないことのほうが多い状態である。

○教職員も含め、学校全体で支援員の存在や役割、本事業の認識を広めていく必要がある。しかし、少ない支援員の人数のため、ニーズが高まった場合への対応への危惧もある。

○地域同士のつながりが希薄化している地域にとっては、いかに支援員が家庭にまで入り込み、どのような支援ができるのか、それを行政、学校、支援員が連携を密に取る必要がある。



【支援員による見守り】



【登校支援の様子】

報告書記入者 ( 教 頭 )

# CS / 地域とともにある学校 / コミュニティ・スクール



コミュニティ・スクール（略称CS）とは…

保護者や地域住民が一体となって学校運営に関して話し合う「学校運営協議会」を設置し、地域と連携協働しながら学校運営に取り組む学校のことです。法律に基づいた制度となります。

## 具体的にどんなことを話し合っているの？

### 例えば…

校長の策定する基本的な学校経営方針を承認します。※この承認はOKではなく「Let's（みんなと一緒にやりましょう）」です。



校長先生

本校の教育目標は「目標に向かって主体的に取り組む力を育てる」です。そのため、○○に積極的に取り組みたいと思っています。



校長先生

子どもたちの多様な体験機会が減少しているように思います。体験的な学習の機会を増やしていきたいです。キャリア教育についても実感をもった学習にしていきたいと考えています。

### 例えば…

学校運営に関する課題について、協議会でできることを話し合います



CS委員

これまで様々な経験をされてきたことを、子どもたちに話して下さる方がいるといいですね。



CS委員

協力してもらえらる方がおられるか自治会や保護者に声をかけてみます。



CS委員

地域でも様々な体験ができるような行事を計画していきたいと思っています。

### その他にも…

学校課題だけでなく、家庭や地域の課題など、必要に応じて協議会で取り上げ、話し合いをしていきます。

check

CS解説動画はこちらから



## コミュニティ・スクールの魅力

### 子ども



- ・学びや体験活動が充実します。
- ・地域への愛着や理解が深まります。
- ・自己有用感が高まります。

### 学校



- ・子どもと向き合う時間が増えます。
- ・幅広い教育ができるようになります。
- ・地域人材を活用することで教育活動が充実します。

### 地域



- ・経験を活かし、子どもたちと触れ合う中で生きがいややりがいが生まれます。
- ・地域の活性化につながります。
- ・学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。

### 保護者



- ・学校や地域に対する理解が深まります。
- ・地域の中で育てられているという安心感が生まれます。
- ・保護者同士や地域の人々に人間関係が構築できます。

## 学校運営協議会と地域学校協働活動

学校運営協議会は、学校や地域住民、保護者などの委員で構成され、学校運営への必要な支援などについて話し合います。

ここで話し合わせた内容をもとに「できること」を考え、読み聞かせや環境整備、学習支援などといった「地域学校協働活動」を地域学校協働本部が行っていきます。



一緒に活動しませんか？

地域学校協働活動

ボランティア募集！！

各小中学校では、地域学校協働活動を支援していただくボランティアを募集しています。詳しくは地域の各小中学校までお問い合わせください。

## 彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会設置要綱

### (名称)

第1条 この委員会は、彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

### (目的)

第2条 実行委員会は、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（以下「地域学校協働活動」という。）を推進することを目的として設置する。

### (任務)

第3条 実行委員会は、市域での概ね次の各号の事項について調査・研究・協議を行うものとする。

- (1) 事業全体の企画・運営・調査研究に関すること
- (2) 地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）、学校支援ボランティアの養成及び連絡調整に関すること
- (3) 事業成果の報告に関すること
- (4) 事業の評価に関すること
- (5) その他必要と認められること

### (組織)

第4条 実行委員会の委員は、次に掲げる者のうちから25名以内で組織する。

- 2 彦根市教育委員会教育長が委嘱する行政関係者、学校教育関係者、PTA関係者、社会教育関係者（地域学校協働活動推進員、学校運営協議会関係者）等をもって構成する。

### (役員)

第5条 実行委員会に委員長1名、副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、実行委員会を代表して会務を総括する。副委員長は、委員長を補佐する。

### (任期)

第6条 委員の任期は、就任した日から当該年度の3月31日までとする。ただし、欠

員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 実行委員会の会議(以下「会議」という。)は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 会議は、委員長が必要と認めた者に参加を依頼することができる。
- 3 必要に応じて教育委員会内関係職員による連絡会議を開くことができる。

(部会)

第8条 実行委員会に、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会の委員は、実行委員会の委員のほか委員長が必要と認めた者をもって充て、委員長が指名する。
- 3 専門部会に関する必要な事項は、委員長が定める。

(庶務)

第9条 実行委員会の庶務は、彦根市教育委員会事務局生涯学習課において処理する。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるものの他に、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

付 則

この要綱は、令和5年(2023年)4月1日から施行する。

# 令和5年度彦根市地域学校協働活動推進事業実行委員名簿

順不同敬称略 ※勤務校変更

	氏名	役職	委嘱・任命	継・新
1	富永 美砂穂	東中学校 地域学校協働活動推進員	委嘱	継続
2	竹内 彰	西中学校 地域学校協働活動推進員	委嘱	新規
3	北村 直久	中央中学校 地域学校協働活動推進員	委嘱	継続
4	木ノ内 江以子	南中学校 地域学校協働活動推進員	委嘱	継続
5	平塚 寿和子	彦根中学校 地域学校協働活動推進員	委嘱	継続
6	森 正治	鳥居本中学校 地域学校協働活動推進員	委嘱	継続
7	山田 孝	稲枝中学校 地域学校協働活動推進員	委嘱	新規
8	小林 朱実	若葉小学校 地域学校協働活動推進員	委嘱	継続
9	柴田 雅美	NPO法人 Links 代表	委嘱	継続
10	三宅 草	東中学校 教頭	任命	継続
11	山中 健児	西中学校 教頭	任命	新規
12	松田 暁郎	中央中学校 教頭	任命	継続
13	小坂 英司	南中学校 教頭	任命	新規
14	宮川 智代	彦根中学校 教頭	任命	新規
15	綾木 尚子	鳥居本中学校 教頭	任命	継続
16	西山 久美子	稲枝中学校 教頭	任命	継続
17	北川 祐子	若葉小学校 教頭	任命	継続
18	磯崎 久和	城東小学校 校長（校長会）	任命	継続
19	山内 徹好	鳥居本中学校 校長（校長会）	任命	新規
20	東野 了賢	学校教育課 課長	任命	新規
21	小椋 朋子	生涯学習課 課長	任命	継続
22	奥村 育美	生涯学習課 主査	任命	新規
23	林 宏	生涯学習課 主幹	任命	継続

令和5年度

「彦根市地域学校協働活動推進事業」  
地域学校協働本部事業・地域未来塾事業  
地域家庭教育支援事業

**実践事例集**

発行 令和6年(2024年)3月

彦根市教育委員会事務局生涯学習課

TEL0749-24-7974 FAX0749-23-9190

E-mail syogai@mx.hikone.ed.jp

## 令和5年度 彦根市地域学校協働活動推進員一覧

	地域学校協働活動推進員 (地域コーディネーター等)名	通算経験 年数 (○年目)	対象事業(事業兼務状況)			対象校・園区		
			地域学校 協働本部	地域未来塾	家庭教育 支援	中学校	小学校	幼稚園等
1	富永 美砂穂	13	○	○		東		
2	田中 二三代	2	○	○		東		
3	馬場 敬子	8	○				城東	
4	角 寿賀子	5	○				城東	
5	安河内美沙子	10	○				佐和山	
6	橋野 賀代	6	○	○	○		佐和山	
7	岡崎 みか	6	○				旭森	
8	林 尚子	3	○				旭森	
9	竹内 彰	1	○			西		
10	青柳 久美子	3	○	○		西	城西	
11	尾田 英昭	10	○				城西	
12	吉原 義彦	1	○				城北	
13	北村 直久	5	○			中央		
14	柴田 雅美	7		○		中央		
15	小野 忠夫	13	○				平田	
16	尾本 和洋	1	○				金城	
17	木ノ内江以子	13	○	○		南		
18	寺村 和代	5	○			南		
19	永井 嘉和	6	○				城南	
20	高須 博美	1	○				城陽	
21	岩野 幹夫	7	○				亀山	
22	小林 朱実	6	○				若葉	
23	平塚 寿和子	8	○			彦根		
24	米田 紀代子	6	○			彦根		
25	馬場 英一	4	○				高宮	
26	澤田 勘一	4	○				河瀬	
27	森 正治	6	○	○		鳥居本		
28	松浦 近子	3	○				鳥居本	
29	小嶋 麻衣子	3	○				鳥居本	
30	北川 浩志	12	○			稲枝		
31	山田 孝	1	○			稲枝		
32	小西 喜雄	2	○				稲枝東	
33	西田 吉雄	1	○				稲枝西	
34	川瀬 保雄	7	○				稲枝北	